

2011年度 昭和会誌 診療部門



公益財団法人昭和会 IMAKIIRE GENERAL HOSPITAL

SHOWAKAI CLINIC

今給黎総合病院・昭和会クリニック

もくじ

- 3 内科（総合内科）
- 5 血液内科
- 6 糖尿病内科
- 7 消化器内科
- 10 循環器内科
- 11 呼吸器内科
- 15 神経内科
- 19 外科(消化器・乳腺・甲状腺・小児・肛門)
- 21 呼吸器外科
- 23 整形外科・リハビリテーション科
- 27 形成外科
- 29 脳神経外科
- 32 産婦人科
- 35 新生児内科
- 39 小児科
- 41 泌尿器科
- 42 眼科
- 43 気管食道・耳鼻いんこう科
- 44 皮膚科
- 46 麻酔科
- 48 放射線診断科
- 50 放射線治療科
- 51 緩和医療科
- 52 病理診断科
- 55 在宅診療科
- 57 歯科、歯科口腔外科

内科(総合内科)

総合内科部長 生野 博久

当院総合内科は以前斉藤先生が部長として勤務されていましたが、しばらく担当がおらず、平成16年より生野博久と二木真琴先生が担当し再開しました。

総合内科の業務は、外来では感染症、健康診断、ワクチン接種、午後の外来のバックアップ、入院では感染症、不明熱の診断治療などです。ワクチン接種に関しては昨年度インフルエンザを含めて899件行いました。昨年よりは色々な科の研修を続けて消化器疾患、内科全般に詳しい大磯先生に加えて外科出身の三宅先生にも参加していただき更に総合的な治療を行う体制となってきています。

2009年から2010年はメキシコより感染が広がったブタ由来A型インフルエンザ(H1N1)の流行が日本にもおしよせ、当科へも多く患者さんが来院されました。当院は発熱外来を設けて患者様に受診していただきましたが、初めての事で戸惑いと集団発生する感染症への対応の困難さを痛感しました。この感染症により世界中で1万4千人以上(WHOの報告より)が亡くなっています。日本でも200人程度(厚生労働省報告より)が亡くなりました。早期の診断、タミフル、リレンザの投与は効果的であったと考えています。

2008年4月より特定健診が開始されました。これは話題となった代謝症候群を診断し治療、指導するのを目的としています。脳出血、脳梗塞、心筋梗塞の原因となる動脈硬化には以前より高血圧、高脂血症、肥満、糖尿病などの危険因子があると言われていました。代謝症候群とは特に女性で診断基準が問題になっていますが、腹部に内臓脂肪の蓄積がある場合は程度の軽い危険因子の組み合わせによっても動脈硬化が非常に進行しやすいという概念です。自覚症状のある前に早期に動脈硬化の危険因子を発見し治療するためには、健康診断は重要と思われまます。

当科は高齢者の患者様が特に多く、病気の治療は当然ですが、治癒した後の退院先でのfollow upが大変重要と思われまます。専門性が利用できる場所は生かし、MSW(ソーシャルワーカー)、在宅医療部との連携を保ち、より良いquality of lifeを目指した治療を考えて行きたいと思ひまます。

2005年よりNST(nutrition support team)の活動も行っています。これは患者様の栄養状態を把握して、栄養補給を補助する多種職種を含めた委員会活動です。主治医が希望する低栄養状態の患者様を栄養士、PT、ST、薬剤師、看護師と供に回診を行い、主治医への助言、補助を行っています。2007年の5月からは入院時血清アルブミン値が低い患者様のスクリーニングも開始しました。2010年2月よりは入院患者様のカルテも電子カルテ化されましたので、スタッフと患者様の栄養状態の確認、検討を行い病棟への回診を行うように変更しました。本年2月には学会でサプリメントの効果について発表も行いました。当科としては地道に診療、委員会活動を続けようと思ひまます。

【スタッフ】

部長 生野 博久

NST認定医

医師臨床研修指導医養成講習修了医

医学博士(鹿児島大学)

二木 真琴

日本血液学会 専門医

医学博士(日本医科大学)

三宅 健治

日本外科学会認定医

日本医師会認定産業医

日本体育協会スポーツドクター

【診療実績】

クリニック外来患者数（平成23年1月～平成23年12月）

初診	再診	患者 延べ数	1日平均			平均通院	初診率
			合計	初診	再診		
3,451	5,918	9,369	25.7	9.5	16.2	2.7	36.8%

今給黎総合病院外来患者数（平成23年1月～平成23年12月）

初診	再診	患者 延べ数	1日平均			平均通院	初診率
			合計	初診	再診		
1,475	500	1,975	5.4	4.0	1.4	1.3	74.7%

【予防接種件数】（平成23年4月1日～平成24年3月31日）

	インフル エンザ	おたふく	エイム ゲン	ビー ムゲン	日本 脳炎	麻し ん	風し ん	狂 犬 病	破 傷 風	水 痘	麻し ん 風し ん	三 種 混 合	ニ ュー モ バ ッ ク ス	合 計
4月		2		6						1	5		1	15
5月			1	10	1		1	1			13			27
6月							1				6			7
7月		2	1	1			1				2			7
8月		1	1	1	1		1	1	1	1	30			38
9月				2	1		1	1	3		7			15
10月	102										5			107
11月	354	5	1	1		1	1	1	1	1	6			372
12月	144	4	2	6			1	2		1	5	2	8	175
1月	45	2	6	8	1			1	3		6			72
2月	16	1	1	2	1			1			12		2	36
3月	1						1	1		1	20		4	28
総合計	662	17	13	37	5	1	8	9	8	5	117	2	15	899

血液内科

血液内科部長 小 濱 浩 介

当院血液内科は現在常勤医師1名（総合内科兼任）で運用されており、白血病、悪性リンパ腫、成人T細胞白血病、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群などの血液の悪性疾患から、各種貧血、出血傾向をきたす疾患（紫斑病等）の診療を行っています。当院は血液学会認定研修施設となっており、総合病院として放射線治療をはじめとしたスムーズな他科連携を伴う集学的治療が可能であることが最大の特徴です。

外来は別表の通りですが、詳細は随時外来までお問い合わせください。

【診療実績 平成 23 年】

外来初診106名、新規患者入院46名

主として骨髄腫、悪性リンパ腫の診療を総合内科との連携で行っています。

【スタッフ】

小濱 浩介(おばまこうすけ) 血液内科部長、医学博士

略歴 平成元年熊本大学医学部卒業、鹿児島大学病院、九州がんセンター、
東京大学医科学研究所附属病院、鹿児島市立病院、今村病院分院などで血液内科医として勤務

資格 血液学会専門医、同指導医、内科学会認定医、がん治療認定医、臨床腫瘍学会暫定指導医
その他日本輸血学会、緩和ケア学会などに所属

【平成 23 年度中の学術活動】

【学会発表】

2011 年 10 月名古屋 日本血液学会総会

Two patients with multiple myeloma who developed multiple cerebral infarctions early after the initiation of treatment.

Kosuke Obama

糖尿病内科

糖尿病内科部長 盛満 慎吾

【診療内容、特色】

鹿児島県内最大の民間の総合病院であることの人的および設備的なメリットを生かして、あらゆる病期の糖尿病患者さんにつきまして、血糖コントロールおよび慢性透析を除く全ての糖尿病に伴う合併症の管理が出来ます。ただ、平成23年度は担当医師が常勤医1名、非常勤医1名と少ない診療体制から、非常勤医が3月までで都合により退職となったため、より一層の診療体制の縮小より管理出来る患者さんの数は、既に限界に達しております。そのため、病状が落ち着いておられる患者さんにつきましては、掛かり付けの医療機関に紹介させて頂き、受け入れ可能患者数の確保に努めております。

【スタッフ紹介】

部長 盛満 慎吾

所属学会：日本内科学会、日本糖尿病学会、日本内分泌学会

資格：日本内科学会総合内科専門医、日本糖尿病学会専門医

医員（非常勤） 奥 寛子（平成23年3月までで退職）

所属学会：日本内科学会、日本糖尿病学会、日本神経学会

資格：日本内科学会認定医、日本神経内科専門医

人事：平成23年3月31日 奥医師が退職

【外来診察担当】

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
AM	盛満*	盛満	盛満	盛満	盛満*	休診
PM	休診	休診	休診	休診	休診	

* 予約再診のみ

【診療実績（累計人数）】

外来患者数：初診 35人 再診 2,627人 ⇒ 合計 2,662人

入院患者数：当科 367人 他科 1,048人 ⇒ 合計 1,415人

【平成24年度の計画】

前述のように平成23年3月より常勤医1名と少ない医師数での診療体制に対し、患者さんの増加、特に無治療や合併症をお持ちの重症な患者さんの増加が著しく、現在の当科の診療体制では質および量の面において、既に限界に達しております。そのため、以前より推し進めております開業医の先生方との地域連携パスを含めた病診連携をより一層進めることによる外来診療の効率化と、また、担当医の確保という人的資源の充実を図ってまいりたいと思います。今後とも開業医の先生方には、引き続き、色々ご支援をお願いすることもあるかと思いますが、その際は、ご理解とご協力の程を頂きますように、この場をお借りしてお願いする次第です。その際は宜しくお願い申し上げます。

また、糖尿病性細小血管障害の評価については、入院下でも十分に行なえておりますが、以前は、入院下で行ってございました動脈硬化性疾患の評価や悪性腫瘍のチェックが、DPC（診断群分類包括評価）といわれる包括医療制度上、入院下では十分に行ない難くなってきております。そのために、本年度より動脈硬化性疾患の評価や悪性腫瘍のチェックは外来で行なえるようにシステムを構築し、通院中の全患者さんに検査を受けて頂くようにしているところであります。

最後に、糖尿病患者さん方に対して、一病息災という理念の下に、QOLを維持しつつ健康な方々とかかわらない寿命を可能な限り保障出来るように、今後とも努力してまいりたいと思います。今後ともかわらぬご支援の程をお願い申し上げます。

消化器内科

消化器内科部長 古賀 哲也

消化器内科は、月曜日から金曜日まで内視鏡を含む超音波を使った検査、および治療が行われています。診療は、常勤医4名の他、4名の非常勤医で行っています。

検査は上部・下部消化管内視鏡検査、腹部超音波検査、上部・下部超音波内視鏡検査、超音波内視鏡下生検、内視鏡的逆行性膵胆管造影、IDUS、胃透視、注腸検査を行っております。

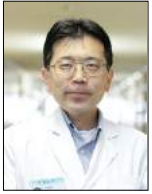
処置は、上部・下部消化管内視鏡的止血術、経肛門のイレウスチューブ留置術、イレウスチューブ留置術、内視鏡的異物除去術、内視鏡的食道拡張術、EIS・EVL、内視鏡的食道粘膜切除術、内視鏡的胃粘膜剥離術、内視鏡的大腸ポリープ切除術、食道ステント留置術、大腸ステント留置術、内視鏡的胆道ドレナージ術、内視鏡的乳頭切開および拡張術、内視鏡的胆道メタリックステント留置術、内視鏡的胃瘻増設術、PEG-J、経皮経肝胆道ドレナージ術、経皮経肝胆嚢ドレナージ術、経皮経肝胆嚢穿刺吸引術と多岐に渡っております。

当科の特徴は、内視鏡のほとんどすべての処置を満遍なく扱っていること、総合病院の特徴から他疾患やリスクの高い患者さんが多いこと、消化管全般の化学療法（入院・外来）を行っていること、緊急処置を要する患者様の緊急搬送が多いことです。外来は離島を含めた県内各地の病院から紹介を頂いております。

内視鏡室には3名の専属スタッフがおり、当科の高い安全性と成功率を維持する要となっております。

【スタッフ紹介】

医師



消化器内科部長 古賀 哲也

日本消化器病学会消化器病専門医・指導医
日本消化器内視鏡学会認定専門医
日本内科学会認定医
胃瘻造設者・胃瘻管理者・胃瘻教育者認定医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医



消化器内科部長 今給黎 和幸

日本消化器病学会消化器病専門医
日本消化器内視鏡学会認定専門医・指導医
日本内科学会認定医
日本人間ドック学会認定医

消化器内科 医師 田村智章（平成24年3月退職）

消化器内科 医師 犬塚 貞利

消化器内科 医師 田島 誠一郎

内視鏡室 看護師

梅北 裕司

山元 真貴子

轟木 理江

【外来診療日】

月曜～土曜日 午前

月	火	水	木	金	土
今給黎 犬塚 非常勤	今給黎 田島 非常勤	古賀 今給黎 非常勤	犬塚 大塚	古賀 田島 非常勤	交代制

【診療状況】

外来患者数 初診 2,028名、再診 6,775名

入院患者数 575名

【検査件数】（2011年度）

検査名	件数
上部内視鏡検査	2,161
下部内視鏡検査	881
経鼻内視鏡検査	148
上部超音波内視鏡検査(EUS)	71
注腸造影	57
胃透視	28
内視鏡的逆行性膵胆管造影(ERCP)	13
食道透視	10
小腸造影	8
十二指腸造影	7
PTCD	7
PTGBA	5
PTGBD	4
下部超音波内視鏡検査(CUS)	2
超音波内視鏡下生検(FNA)	2
小腸内視鏡検査	2

腹部エコー 1,656件

【処置件数】(2011年度)

処置名	件数
内視鏡的大腸ポリープ切除術	180
上部消化管内視鏡の止血術	66
内視鏡的胆道ドレナージ術(ENBD・ERBD)	64
経口イレウスチューブ留置術	34
PEG交換	33
内視鏡的胆道碎石術(EML)	27
内視鏡的胃瘻造設術(PEG)	22
内視鏡的乳頭切開術(EST)	17
下部消化管内視鏡の止血術	15
経肛門のイレウスチューブ留置術	15
内視鏡的異物除去術	15
食道ステント留置術	15
内視鏡的食道拡張術	6
W-EDチューブ留置	6
早期悪性腫瘍粘膜下層剥離術(ESD)	5
経皮経肝胆道ドレナージ術(PTGBD)	4
大腸ステント留置術	3
PEG-J交換	3
EIS・EVL	2
内視鏡的胆道ステント留置術	2
PEG-J造設術	2
経皮経肝胆道ドレナージ術(PTCD)	2
軸念転整復	2
経皮経肝胆道穿刺吸引術(PTGBA)	1

【講演・学会活動など】

【論文】

Double elementary diet tube(W-EDチューブ)留置により経腸栄養管理が可能となった進行食道癌、進行胃癌併存の一症例

日本病態栄養学会誌 14巻4号 333-337 2011
永井利明、古賀哲也、田村智章、犬塚貞利、大磯陽子、松本淳、鈴木聖子

これからを担う消化器専門医の育成
一内科系施設の取り組みと課題一

日本消化器病学会雑誌 109巻 1号 2012年1月
19-29
石橋大海、古賀哲也、他

【症例報告】

胃ポリープを検診異常で指摘され、同病変精査を契機に見つかった早期胃癌の1例

第50回日本消化器がん検診学会総会 東京
2011年5月20日

今給黎総合病院消化器内科
永井利明、古賀哲也、田村智章、犬塚貞利、大磯陽子、牧尾善幸、税所篤郎
鹿児島県民総合保健センター 松元 淳
鹿児島大学大学院消化器疾患・生活習慣病学
坪内 博仁

内視鏡併用食道ステント留置術の有用性
第12回鹿児島消化器・生活習慣病フォーラム
鹿児島市 2011年10月16日
古賀哲也、今給黎和幸

糞便を閉塞機転に発症した閉塞性腸炎の1例
第98回日本消化器病学会九州支部例会・第92回
日本消化器内視鏡学会九州支部例会 長崎
2011年11月18日
今給黎総合病院 消化器内科
大磯陽子、古賀哲也、田島誠一郎、永井利明、田村智章、今給黎和幸、犬塚貞利、税所篤郎
鹿児島県民総合保健センター 松元 淳
鹿児島大学大学院 消化器疾患・生活習慣病学
坪内博仁

肝膿瘍を契機に発見された下行結腸癌の1例
第98回日本消化器病学会九州支部例会・第92回
日本消化器内視鏡学会九州支部例会 長崎
2011年11月18日
今給黎総合病院 消化器内科
田島誠一郎、古賀哲也、永井利明、大磯陽子、田村智章、今給黎和幸、犬塚貞利、税所篤郎
鹿児島県民総合保健センター 松元 淳
鹿児島大学大学院 消化器疾患・生活習慣病学
坪内博仁

十二指腸に突出した胆管金属ステントをAPCで切断した1例
第98回日本消化器病学会九州支部例会・第92回
日本消化器内視鏡学会九州支部例会 長崎
2011年11月18日
今給黎総合病院 消化器内科
増田秀一郎、古賀哲也、永井利明、田島誠一郎、大磯陽子、田村智章、今給黎和幸、犬塚貞利、税所篤郎
鹿児島県民総合保健センター 松元 淳
鹿児島大学大学院 消化器疾患・生活習慣病学
坪内博仁

十二指腸ステント留置後に急性膵炎を発症した1例
第98回日本消化器病学会九州支部例会・第92回
日本消化器内視鏡学会九州支部例会 長崎
2011年11月19日
今給黎総合病院 消化器内科
古賀哲也、永井利明、田島誠一郎、大磯陽子、田村智章、今給黎和幸、犬塚貞利、税所篤郎
鹿児島県民総合保健センター 松元 淳
鹿児島大学大学院 消化器疾患・生活習慣病学
坪内博仁

PEG-Jで出血性胃潰瘍をきたした1例
第98回日本消化器病学会九州支部例会・第92回

日本消化器内視鏡学会九州支部例会 長崎
2011年11月19日
今給黎総合病院 消化器内科
藤崎瑛隆、古賀哲也、田島誠一郎、永井利明、大磯陽子、田村智章、今給黎和幸、犬塚貞利、税所篤郎
鹿児島県民総合保健センター 松元 淳
鹿児島大学大学院 消化器疾患・生活習慣病学
坪内博仁

【症例報告・ポスター】

内視鏡的に経過観察しえた中毒性巨大結腸症の1例
第82回日本消化器内視鏡学会総会 福岡
2011年10月21日
今給黎総合病院 消化器内科
古賀哲也、田島誠一郎、永井利明、田村智章、
犬塚貞利、大磯陽子、牧尾善幸、税所篤郎
鹿児島県民総合保健センター 松元 淳
鹿児島大学大学院 消化器疾患・生活習慣病学
坪内博仁

【ワークショップ】

内視鏡併用食道ステント留置術の有用性
第91回日本消化器内視鏡学会地方会 久留米市
2011年6月25日
今給黎総合病院 消化器内科
古賀哲也、田島誠一郎、永井利明、
田村智章、大磯陽子、牧尾善幸、
今給黎和幸、犬塚貞利、税所篤郎
鹿児島県民総合保健センター 松元 淳
鹿児島大学大学院医歯学総合研究所消化器疾
患生活習慣病学 坪内 博仁

【シンポジウム】

腹部超音波、腹部CT、消化管造影が治療方針決定
に有用であった上腸間膜動脈症候群（SMAS）の1例
第97回日本消化器病学会総会 東京
2011年5月13日
今給黎総合病院 消化器内科
田島誠一郎、古賀哲也、永井 利明、
田村智章、大磯陽子、牧尾善幸、今給黎和幸、
犬塚 貞利、税所 篤郎
鹿児島県民総合保健センター 松元 淳
鹿児島大学大学院医歯学総合研究所消化器疾
患生活習慣病学 坪内 博仁

当院における 進行食道小細胞癌の5例の検討
第97回日本消化器病学会総会 東京
2011年5月13日
今給黎総合病院 消化器内科
永井利明、古賀哲也、田村智章、犬塚貞利、
大磯陽子、牧尾善幸、税所篤郎
国立療養所星塚敬愛園 山元隆文
鹿児島県民総合保健センター 松元淳
鹿児島大学大学院 消化器疾患・生活習慣病学
坪内博仁

胆石症診療ガイドラインの検証と問題点

急性胆嚢炎に対する経皮経肝胆嚢吸引穿刺法
の有用性
第47回日本胆道学会学術集会 宮崎
2011年9月17日
今給黎総合病院 消化器内科
古賀哲也、今給黎和幸
鹿児島県民総合保健センター 松元 淳

当院における胃粘膜下腫瘍に対するEUS-FNAの経験
第98回日本消化器病学会九州支部例会・第92回
日本消化器内視鏡学会九州支部例会 長崎
2011年11月18日
今給黎総合病院 消化器内科
古賀哲也、永井利明、田島誠一郎、大磯陽子、田
村智章、今給黎和幸、犬塚貞利、税所篤郎
鹿児島県民総合保健センター 松元 淳
鹿児島大学大学院 消化器疾患・生活習慣病学
坪内博仁

【座長】

第14回鹿児島PEG研究会
鹿児島市町自治会館 2011年4月2日
古賀哲也

第5回鹿児島胆膵研究会
鹿児島県医師会館 2011年7月14日
古賀哲也

第98回日本消化器病学会九州支部例会・第92回日
本消化器内視鏡学会九州支部例会
一般演題 長崎 2011年11月19日
古賀哲也

【講演】

鹿児島県消化器内視鏡技師会
薩摩川内市 川内文化ホール 2011年7月23日
古賀哲也

【講義、教育活動】

久木田学園看護専門学校講座派遣医師
古賀哲也：消化器の構造と機能、病態生理、
疾患の理解 講座時間 14時間

【平成24年の計画】

当科22年度より新たな機器導入手法として VPP
(Value Per Procedure) を取り入れることにしま
した。5年毎の最新鋭機器更新が可能となるため
に機器の陳腐化を防止、質の高い医療の提供が可
能となります。平成24年度はさらに医師を含めた
スタッフの拡充を予定しており、地域救急医療を
十分に担うことのできる場を提供していきたいと
考えています。

循環器内科

循環器内科部長 大場 一郎

【特色】

当科は鹿児島大学大学院医師学総合研究所循環器・呼吸器・代謝内科学教室（鄭忠和教授）から循環器内科スタッフとして派遣された三名の常勤医で構成されています。循環器疾患の外来・入院診療、他科から依頼の術前および心疾患精査、救急患者の対応を経胸壁・経食道心エコー、頸動脈エコー、下肢動静脈エコーなど超音波検査、運動・薬物負荷検査、冠動脈造影 MDCT を駆使し生理検査室、放射線科と連携のもと多様に診療をこなしています。

【人事・スタッフ】

平成23年度の循環器内科の診療実績について御紹介申し上げます。今年度の人事異動はなく昨年度から引き続き下舞浩二、向井尊医師が鹿児島大学旧第一内科、循環器・呼吸器・代謝内科学から派遣され常勤医として勤務しています。その他に毎年研修医を加えて外来・病棟の診療を行っています。超音波検査は主に生理検査技師の富吉裕児、森田修康、小平由美が行います。院内や外来、他院からの問い合わせを外来受付・看護師が対応し、患者様への治療が円滑に行えるよう皆が心を一つに協力しています。

【診療状況】

1) 外来診療

外来診察は部長が金曜以外の毎日午前中と水曜の午後、他のスタッフが隔日で午前中の診察にあたります。外来患者数は再来・新患併せて一日あたり30-50名程度で、待ち時間の解消のための予約制をとっていますが、予約外の飛び込み受診、新患や急患、他院や他科からの紹介患者様を組み込まざるをえず、限られたマンパワーの中ではなかなか予約通りにはいかないのが実情です。高血圧、高脂血症、糖尿病などの生活習慣病、狭心症・心筋梗塞など虚血性心疾患、陳旧性心筋梗塞後や拡張型心筋症など心筋疾患による慢性心不全、心房細動、上室性頻拍、症候性徐脈などの不整脈および弁膜疾患、下肢閉塞性動脈硬化症（ASO）や深部静脈血栓症（DVT）など下肢血管疾患、大動脈解離などの救急対応と循環器疾患全般の診療を行っています。当科の特徴としては術前心機能評価目的での他科依頼の多さです。冠動脈造影MDCT診断が放射線部のレベルアップによる解析の迅速化で従来より大量かつ詳細な画像診断が可能になりました。当院では心臓カテーテル検査およびカテーテル治療は行いませんので、鹿児島大学病院・鹿児島医療センター・鹿児島市立病

院・天陽会中央病院といった心臓カテーテル施設との緊密な連携によりスピーディな診断・加療を実現しています。また、上記の鹿児島市における循環器基幹病院と合同でカンファレンスや研究発表を行う機会も多く、先進医療の動向にも充分対応出来ます。

2) 入院診療

最も多い症例は高齢者の慢性心不全の増悪により救急搬送されるケースです。ICU管理で循環・呼吸状態を改善させ内科病棟へ転棟し全身状態の改善をみて退院となります。ペースメーカー植え込み術はほぼ毎月一件のペースで行っています。整形外科など長期臥床化する症例が多いことから下肢静脈血栓症例は増加がみられ、放射線科と留置型下大静脈フィルターによる肺塞栓予防を積極的に行っています。

【平成 24 年度に向けて】

現在の診療内容をさらに充実させながら、大病院や鹿児島医療センターといった最新機器や情報の豊富な施設との人的・物的交流をいっそう深めていきます。総合病院である当院の特色から循環器科に限らず幅広い疾患を経験する機会が多く、研修医の対応にも力を入れていく予定です。

【手術症例数】（平成 23 年度）

ペースメーカー移植術

- 1) 新規 : 4 件
- 2) 入れ替え : 2 件

【超音波検査件数】（平成 23 年度）

- ・心エコー : 約 2,800 件
- ・頸動脈エコー
経胸壁心エコー時にルーティンに行っています。
- ・下肢血管エコー 約 280 件

【冠動脈MDCT】

約 300 件

呼吸器内科

呼吸器内科部長 岩 川 純

平成23年7月から、当科は岩川以下川畠、窪田、砂永医師の4人常勤医で診療にあたっております。また週に1回野間池診療所長の内田医師に外来をしていただいております。呼吸器外科、放射線科、病理科とも協力し、患者さまに対して全人的に診療に当たるように努めてまいります。当科は日本呼吸器病学会関連施設です。平成24年4月から岩川からは枝医師、砂永が松山医師に交代いたします。また、新しい呼吸器内科としてより良い呼吸器疾患の診療にあたっております。

【当科の主な診療内容】

肺炎、呼吸器感染症

日本呼吸器学会や感染症学会の市中肺炎ガイドライン、院内肺炎ガイドラインに準拠して診断、治療にあたっています。結核については当院には結核病床がないため、外来での診療が主となります。

肺炎球菌ワクチン接種も行っています。

肺癌

胸部レントゲン、CTなどの画像診断、気管支鏡を行い、肺がんの診断を行います。放射線科、外科、病理と連携して患者様ごとの最も適切な治療について検討し、治療について提案いたします。

内科領域では抗がん剤による治療が中心となります。痛みをとる緩和治療も行っています。

外来での抗がん剤治療も積極的に行っています。担当医にご相談ください

気管支喘息

鹿児島県は2003年の統計で人口10万人あたりの喘息死全国平均2.9人に対して6.6人で全国最下位を記録しています。気管支喘息は、吸入ステロイドを中心とした治療でコントロール可能な患者さんが増えています。当科では喘息死ゼロを目指して鹿児島気管支喘息研究会の協力病院（拠点病院）として活動しています。

間質性肺炎

治療、診断が困難な疾患でしたが徐々に病態が解明されつつあります。治療についても進歩しています

肺気腫、慢性呼吸不全

肺機能、画像所見からの的確な診断を行い、状態にあった治療を選択するように努めています。呼吸リハビリテーションや薬物治療、禁煙指導を行

います。状態によっては在宅酸素療法の導入や非侵襲的陽圧換気療法（鼻マスク式人工呼吸器）も使用しています。

当科では、学会、研究会に積極的に参加して最新の医療学び、院内、当科でのカンファレンスで患者さまごとの最良の医療を提供できるように努力しております。

【外来診療】

月曜日から金曜日は外来担当を決めて診療しております。土曜日については、本年度から救急患者のみの対応とさせていただきます。

平成17年度からの外来患者延べ数と新患者数を表1に示します。平成18年度以降外来患者数では6000人前後で新患者数も1000人前後です。

表1)

	延べ患者数	新患者数
2005年	5,434	1,202
2006年	6,527	1,347
2007年	6,678	1,302
2008年	6,979	1,152
2009年	7,498	986
2010年	7,578	767
2011年	6,795	725

平成23年度の定期外来受診した患者さまの疾患では、気管支喘息が最多で410例、ついで肺炎が約300例でした。また肺がんは68例で、間質性肺炎が30例、肺気腫は90例でした（重複を含む）。

【禁煙外来】

水、金の午前中のみ外来となります。他院での治療困難なかに限定させていただいており、予約制です。ご希望の方はかかりつけ医の先生にご相談のうえ、紹介をいただくようお願いしております。

【入院診療】

入院診療としては平成18年から3階西病棟を主病棟として診療に当たることとしました。各病棟に患者さまが点在すると非効率のみでなく、看護師との連携も困難でよりきめ細やかな診療ができないと考えました。また、看護師をはじめスタッフの教育の点でも不利と判断したためです。軽症患者さまであれば他病棟に入院することはありますが呼吸不全を有する患者さまなどは3階西病棟に入院していただくようにしています。さらに人工呼吸器が必要となる急性疾患などは状態によってはICUでの治療するようにしています。入院患者数の内訳を表2に示します。

表2)

	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度
肺癌	267	243	358	338	335	321	287
肺炎	110	110	121	133	114	110	82
びまん性肺疾患	22	21	18	31	49	62	48
喘息	13	28	24	26	14	21	14
慢性閉塞性肺疾患	7	5	11	14	12	11	15
肺結核	13	4	5	16	13	9	10
その他	161	154	144	198	157	144	134
合計	593	565	681	756	694	678	590

平成23年中の疾患ごとでは肺がんのために入院した延べ患者数が287例と最多となっています。平成18年8月から平成19年7月までの1年間、当科で新規に肺がんと診断された患者数は116例うち呼吸器外科で手術可能な患者様は1/3程度でした。手術ができないⅢb期以上の患者が多いのが実情です。治療としては進行肺がんで高齢、全身状態が不良のため抗がん剤による化学療法ができなかった数例を除き、化学療法を施行しています。化学療法は複数回の治療となるため1人の患者さまが2-6回入院するため延べ患者数では最多となっています。肺がんについては患者さまには病名を告知し、標準的に肺がんで使われている化学療法を選択し、効果も説明して納得して治療を受けていただくようにしております。また入院だけでなく外来での化学療法を積極的に行い、患者さまの負担を軽減するように努めています。

他の疾患としては肺炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患についても学会などの推奨するガイドラインに基づき経験だけに頼らない、根拠のある治療を目指しています。

平成23年の気管支鏡検査数は134例で大きな合併症はありませんでした。気管支鏡を行い肺がん疑いで行った気管支鏡検査おこなった53例中39例70%で組織または細胞診で診断が確定しています。重篤な合併症はありませんでした。診断率は例年60-70%で、今後も診断確率を上げるべく適応を考慮し、安全に的確な検査を施行していきます。

最後に、当科が円滑に診療を行えるのも3階西病棟の戸師長をはじめ病棟スタッフ、外来スタッフや多くのコメディカルの方々のお陰です。紙面ではありますがお世話になっている方々に厚く御礼申し上げます。

【スタッフ】

略歴

岩川 純

1995年 鹿児島大学医学第3内科入局 研修医
 1997年 県立北薩病院 呼吸内科医師
 1999年 長崎大学 第二内科
 感染症グループに国内留学
 2001年 ネブラスカ州立大学 留学
 2003年 出水市立病院呼吸器内科医長
 2005年 鹿児島大学病院 呼吸器内科医員
 2006年 今給黎総合病院呼吸器内科 部長 現職

<所属学会>

日本内科学会 日本呼吸器学会
 日本感染症学会 日本化学療法学会
 日本臨床腫瘍学会 日本肺癌学会
 日本アレルギー学会

<取得資格>

医学博士 07年3月 学位取得（鹿児島大学）
 鹿児島大学学位授与
 日本内科学会認定医
 日本内科学会総合内科専門医
 日本呼吸器学会 専門医
 日本がん治療認定医
 ICD

<受賞>

2001 University Nebraska Outstanding PHD Award
 2002 AMERICAN THORACIC SOCIETY Young Investigator Award
 2003 鹿児島大学第3内科 海外留学奨励賞
 2004 鹿児島大学第3内科 症例報告賞
 2006 鹿児島大学第3内科 症例報告賞

川島 寿史

1998年 鹿児島大学 第3内科入局
2000年 出水市立病院
2001年 今村分院
2003年 川内市民病院
2008年 国立病院機構 南九州病院 呼吸器内科
2011年 今給黎総合病院呼吸器内科

<所属学会>

日本内科学会 日本呼吸器学会
日本結核病学会 日本感染症学会
日本神経学会

<資格修得>

日本内科学会認定医 (神経内専門医)
日本呼吸器学会 専門医

窪田 幸司

2002年 鹿児島大学病院第3内科入局
2004年 肝属郡医師会立病院呼吸器内科
2005年 国立病院機構 南九州病院 呼吸器内科
2007年 鹿児島大学病院呼吸器
ストレスケアセンター
2009年 今給黎総合病院呼吸器内科

<所属学会>

日本内科学会 日本呼吸器学会
日本アレルギー学会 日本呼吸器内視鏡学会

<取得資格>

日本内科学会認定内科医

砂永 祐介

2006年 鹿児島大学初期研修医
2008年 鹿児島大学病院後期研修医
2009年 鹿児島市医師会病院 呼吸器内科
2010年 鹿児島県立北薩病院 呼吸器内科
2010年 国立病院機構 南九州病院 呼吸器内科
2011年7月 今給黎総合病院呼吸器内科 現職

<所属学会>

日本内科学会、日本呼吸器学会

<取得資格>

日本内科学会認定医

【学会活動業績】

【論文】

父娘感染が示唆された RFP、SM 耐性肺結核の一例
鹿児島医報
岩川 純, 隈元朋宏, 本川郁代, 久保田真吾

【講演会】

感染症

PK/PD を考慮した市中肺炎の治療
谷山生協病院 2007年9月26日
岩川 純

PK/PD を考慮した市中肺炎の治療

串木野医師会 2008年11月18日

岩川 純

ガイドラインを踏まえた市中肺炎の診療の実際
クラビット発売記念特別講演 2009年8月7日
岩川 純

PK/PDを考慮した抗菌薬の適正使用

鹿児島市薬剤師会 2009年7月7日
岩川 純

今給黎総合病院感染防御委員会の取り組み多剤耐性緑膿菌について

ゾシン発売記念講演会 2010年3月18日
岩川 純

気管支喘息 COPD

成人喘息のガイドラインと吸入ステロイド薬の位置づけ

第119回 鹿児島市薬剤師会 西区勉強会
2008年7月16日
岩川 純

病態に基づいた最適な喘息治療とは?

鹿児島気管支喘息研究会 ミニレクチャー
2009年4月14日
岩川 純

気管支喘息の診断と治療のポイント

鹿児島市東地区薬剤師会 2010年2月23日
岩川 純

気管支喘息の診断と治療のポイント

出水郡医師会内科医会 2010年3月2日
岩川 純

気管支喘息の診断と治療のポイント

大隅地区4医師会 2010年4月22日
岩川 純

【学会発表】

芳香剤誤嚥による呼吸不全を起し救命し得なかった1例

第59回日本呼吸器学会九州地方会 別府市
2007年11月22日

今給黎総合病院呼吸器科

○隈元 朋洋 本川 郁代 久保田 真吾 岩川 純
鹿児島大学病院呼吸器ストレスケアセンター
松山 航 東元 一晃 有村 公良

リネゾリドが有効であった MRSA による中心静脈カテーテル関連敗血症の1例

第279回日本内科学会九州地方会 長崎市
2007年11月18日

今給黎総合病院呼吸器科

○隈元 朋洋 本川 郁代 久保田 真吾 岩川 純
鹿児島大学病院呼吸器ストレスケアセンター
松山 航 東元 一晃 有村 公良

Voriconazole により画像所見が改善したアレルギー性気管支肺アスペルギルス症の一例

第61回日本呼吸器学会 九州地方会 宜野湾市
2008年11月6日
今給黎総合病院 呼吸器内科
○内田 章文 ○岩川 純 上川路 和人
野間 聖 久保田 真吾
鹿児島市立病院 内科
末次 隆行 町田 健太郎

明らかな免疫異常がなく発症した肺ノカルジア症の1例

第63回日本呼吸器学会 九州地方会 北九州市
2009年11月26日
○上川路 和人 岩川 純 内田 章文
野間 聖 久保田 真吾

肺癌術後に骨髄異形成症候群を発症し、その後併発したびまん性肺疾患の一例

第65回日本呼吸器病学会 九州地方会 熊本市
2010年11月12日
○久保田 真吾 俣木 浩子 窪田 幸司
岩川 純

Achromobacter (Alcaligenes) xylosoxidans による肺炎を繰り返した1症例

第65回日本呼吸器病学会 九州地方会 熊本市
2010年11月12日
○窪田 幸司 俣木 浩子 久保田 真吾
岩川 純

当院における 肺大細胞神経内分泌癌に対する 根治的手術の治療成績

第 52 回日本肺癌学会 総会 大阪
2011 年 11 月 3 日
○内田章文 久保田真吾 窪田幸司 岩川 純
呼吸器外科 巻幡 聰 米田 敏

【研究会発表】

吸気流入速測定による吸入ステロイド薬剤形の検討

第 6 回鹿児島喘息研究会
○久保田 真吾 岩川 純
鹿児島大学病院 呼吸器内科 東元一晃

ゲフィチニブが著効した喫煙者肺線がんの1例

鹿児島肺がん研究会
○岩川 純 隈元朋宏 本川郁代 久保田真吾

肺アスペルギルス症に対する新規抗真菌薬の使用経験

○岩川 純 久保田真吾 野間 聖 内田章文

当院で経験したカルチノイドの症例

第 51 回鹿児島肺がん研究会
城山観光ホテル 鹿児島市 2010 年 10 月 8 日
今給黎総合病院 呼吸器内科
久保田 真吾 田上 あさ子 窪田 幸司
岩川 純
呼吸器外科
巻幡 聰 酒瀬川 浩一 米田 敏

神経内科

神経内科部長 長 堂 竜 維

【特徴】

当院神経内科は鹿児島大学神経内科・老年病学講座を母体としており、丸山・長堂・林・徳永は同科の出身または同科在籍中の医師です。この4人と鳥取大学脳神経内科出身の甲斐を含めた5人が当科の常勤医で、この5人は全員が日本神経学会神経内科専門医です。加えて7人の非常勤医師にも応援をもらい頭痛・めまい・しびれ等の症状や脳卒中・パーキンソン病・アルツハイマー型認知症等の一般神経内科外来から、急性期神経疾患の救命救急医療・急性期リハビリテーションまでの神経内科診療をこなしています。鹿児島大学の神経内科・老年病学講座が日本においても最も規模の大きく且つ歴史のある神経内科教室のひとつである事もあり、鹿児島県は他の県に比べ神経内科医の非常に多い県です。しかし、神経内科専門医5人を常勤として抱え神経救急を行っている私立病院は全国的にもそう多くはなく、鹿児島県における神経内科診療に多少なりとも貢献できているものと私どもは自負しております。

次に今年度の診療実績について書かせていただきます。まず入院患者さんですが、昨年の入院患者総数416人とほぼ同数の415名（平成23年4月1日～平成24年3月31日）が一年間で入院されました。神経内科という科の性格上、予定入院はほとんど無く緊急入院が多い事を考えると、ほぼ毎日一人の入院患者を受け入れてくれる病棟スタッフには頭の下がる思いがします。外来患者さんは、一年間の初診患者総数が1,384人、外来患者総数が12,734人で、一日平均外来患者数は34.9人でした。病棟は昨年度と同じく別館2階南病棟42床で神経内科と皮膚科の混合病棟となっており、皮膚科の児浦先生/吉福先生には時間を問わず的確なご指導をいただき、神経内科一同感謝の気持ちでいっぱいです。

病棟スタッフは上之菌師長以下26名の看護師が定時帰宅を夢見ながら激務をこなしています。神経内科は他科に比べ高齢の患者さんやADLの低下した患者さんも多い中でクオリティの高い看護・介護を実践してもらい、医師にとって本当に働きやすい病棟です。

外来は有能で気配りのできる医療クラークの郡山が、5人の常勤医師と7人の非常勤医師を“猿回しの猿”のように上手くおだてながら、神経内科外来のすべてを取り仕切っています。

日常診療以外の業務としては、丸山は副院長としての多くの院内・院外激務に加え、各種研究会の世話人・臨床研修医対応・血液凝固・神経関連の講演を行い、長堂は鹿児島大学医学部非常勤講師として学生講義・大学病院専門外来・ポリクリ学生指導・看護学校の授業などを行っています。林・甲斐の両名は各種学会で口演発表し、論文も複数発表しています。また林・甲斐・徳永の3名は訪問診療も行っています。このように全員が医療以外にも少しずつ多くの雑多な用事を両手いっぱい抱えながらコマネズミのように毎日走り回っています。

以上、簡単ではありますが今給黎総合病院神経内科の日常をご紹介します。ありがとうございました。

【スタッフ】

丸山芳一 副院長・神経内科部長
 医学博士、日本神経学会専門医
 日本内科学会認定医、日本神経学会評議員、
 鹿児島大学臨床教授 愛媛大学医学部卒

長堂竜維 神経内科部長
 医学博士、日本神経学会専門医
 日本内科学会認定医
 鹿児島大学医学部非常勤講師
 鹿児島大学医学部卒

林 茂昭 在宅医療部部長
 日本神経学会専門医、日本内科学会認定医、
 日本内科学会総合内科専門医
 鹿児島大学医学部卒

甲斐 太
 医学博士、日本神経学会専門医
 日本内科学会認定医、鳥取大学医学部卒

徳永紘康
 日本神経学会専門医、日本内科学会認定医、
 鹿児島大学医学部卒

非常勤医師

有村由美子医師（電気生理学検査）
 丸山征郎医師（血管病）
 荒田仁医師（神経内科）
 橋口照人医師（神経内科、糖尿病）
 橋口良也医師（頸部血管超音波検査）
 池田賢一医師（神経内科）
 徳永章子医師（神経内科）

【診療状況】

【外来患者】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
初診	102	108	114	100	123	105	100	89	95	96	75	115	1,222
再診	881	815	911	880	938	877	944	906	910	899	876	935	10,772
合計	983	923	1,025	980	1,061	982	1,044	995	1,005	995	951	1,050	11,994
1日平均 初診患者数	4	5	4	4	5	4	4	4	4	4	3	4	-
1日平均 再診患者数	35	35	35	35	35	37	38	38	36	39	37	36	-
1日平均 患者数	39	40	39	39	39	41	42	41	40	43	40	40	-
診療実日数	25	23	26	25	27	24	25	24	25	23	24	26	297

【入院患者】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
入院	38	41	33	36	35	31	21	33	28	37	20	39	32.7
退院	41	41	38	33	41	42	29	23	32	31	29	27	33.9
在院	997	1,053	814	964	1,074	789	604	602	749	823	673	736	823.2
平均病床数	33.2	34.0	27.1	31.1	34.6	26.3	19.5	20.1	24.2	26.5	23.2	23.7	27.0
平均在院日数	25.2	25.7	22.9	27.9	28.3	21.6	24.2	21.5	25.0	24.2	27.5	22.3	24.7

【入院患者内訳】（平成23年4月1日～平成24年3月31日）

急性散在性脳脊髄炎	2
筋萎縮生側索硬化症	13
慢性炎症性脱髄性多発根神経炎	4
心肺停止状態	1
糖尿病（教育入院）	9
ギラン・バレー症候群	6
HAM	1
混合性結合組織病	1
ミトコンドリア脳筋症	2
筋無力症	3
多発性硬化症	13
視神経脊髄炎	6
リウマチ性多発筋痛症	4
RS3PE症候群	2
シャイ・ドレーガー症候群	3
SIADH	1
SLE	2
血栓性血小板減少性紫斑病	1
Wernicke脳症	1
アルコール性ニューロパチー	1
アルツハイマー型初老期認知症	1
イレウス	1
てんかん	18
パーキンソン症候群	4
パーキンソン病	20
ヒステリー	1
ベーチェット病	1
めまい症候群	20
亜急性甲状腺炎	1
亜急性連合性脊髄変性症	2
悪性腫瘍	3
意識障害(原因不明)	4
外傷性頸部症候群	2
感染症	63
末梢性顔面神経麻痺	4

血管炎	8
高血圧性脳症	1
進行性核上性麻痺	1
水中毒	1
脊髄炎(原因不明)	2
脊髄小脳変性症	4
脊髄症(原因不明)	1
脊髄動静脈奇形	1
舌下神経麻痺	1
先天性孔脳症	1
多系統萎縮症	2
脱水症	9
低血糖発作	1
低酸素脳症	1
筋収縮性頭痛	4
脳血管障害	130
脳腫瘍	2
脳症(原因不明)	4
脳神経炎(原因不明)	2
背部痛(原因不明)	1
皮膚筋炎	1
表情筋不随意運動	1
貧血(詳細不明)	1
不安神経症	1
不明熱	3
片頭痛	2
末梢神経障害(原因不明)	1
慢性疲労症候群	1
喘息	2
瘻性脊髄麻痺(HAMを除く)	2
頸椎症	1

感染症の内訳

中枢神経感染症	28
呼吸器感染症	22
尿路感染症	6
敗血症	5
破傷風	1
感染性胸部大動脈瘤	1

脳血管障害の内訳

脳梗塞	111
脳出血	7
TIA	8
脊髄出血	3
くも膜下出血	1

【死亡症例】（14名）

死因	性別	年齢
肺炎	男	87
脳梗塞	女	88
脳梗塞	女	88
脳梗塞	男	90
ミトコンドリア脳筋症	女	52
ミトコンドリア脳筋症	女	16
血管炎	男	71
脳梗塞	女	86
肺炎	男	85
脳梗塞	男	72
脳梗塞	女	87
脳梗塞	男	94
AIDS	男	61
肺炎	女	87
低酸素脳症	女	73
低酸素脳症	男	77
Wernicke脳症	女	65
難治性てんかん	男	33

【対外活動】

脳血管疾患の再発に対する高脂血症薬HMGCoA阻害薬の予防に関する研究

丸山芳一（研究協力）

主任研究者 松元昌泰 広島大学脳神経内科

脳卒中既往患者を対象とした厳格降圧療法の2次予防効果を検討する大規模臨床研究

丸山芳一（研究協力）

研究代表者 自治医科大学 島田和幸

【業績報告】

【論文】

難治性きつ逆・嘔吐で発症し、意識障害、呼吸障害、眼球運動障害を呈し、広範な脳幹病変を認めた抗アクアポリン4抗体関連疾患の1例

臨床神経学 Vol. 51(2011), No. 4, 255-260

甲斐 太、荒田 仁、林 茂昭、長堂竜維、

丸山芳一

軽微な外傷による頸椎動脈解離にて発症したと考えられたAICA症候群の1例

脳卒中 Vol. 33 (2011), No. 4, 419-423

甲斐 太¹、荒田 仁¹、林 茂昭¹、長堂 竜維¹、

新里 友美²、西澤 輝彦²、丸山 芳一¹

今給黎総合病院神経内科¹

今給黎総合病院脳神経外科²

【口演発表】

多発末梢神経障害で発症し、両頸髄前角から長大な横断性脊髄病変を呈した acute severe combined demyelinationの1例

第196回日本神経学会九州地方会 沖縄

2011年12月10日

甲斐 太¹、荒田 仁²、林 茂昭¹、長堂 竜維¹、

丸山 芳一¹、有村 由美子²、有村 公良³

今給黎総合病院神経内科¹

鹿児島大学神経内科²、大勝病院神経内科³

難治性てんかん重積に対してラモトリギン（LTG）が奏効したMELASの1例

第197回日本神経学会九州地方会 福岡

2011年3月17日

今給黎総合病院神経内科

甲斐 太、増田 秀一郎、徳永 紘康、

林 茂昭、長堂 竜維、丸山 芳一

【講演】

認知症の新薬で治療はどう変わるか

鹿児島市 城山観光ホテル 2011年5月11日

丸山芳一

認知症の新しい治療戦略

大島郡医師会館 2011年5月20日

丸山芳一

あたらしい認知症治療

武田製薬営業所 2011年6月15日

丸山芳一

心源性抗塞栓症の最新治療

大塚鹿児島営業所 2011年6月17日

丸山芳一

新しいアルツハイマー病薬は福音となりうる

赤ひげ先生勉強会

鹿児島市 城山観光ホテル 2011年7月12日

丸山芳一

脳卒中にならないための10か条

鹿児島市民健康講話

西部保健センター 2011年7月15日

丸山芳一

epoch-making drug トロンビン攻略の新兵器

鹿児島アステム本社 2011年9月11日

丸山芳一

脳梗塞のパラダイムシフトー抗血栓・抗凝固ー

第8回川薩脳卒中懇話会

薩摩川内市 川内ホテル 2011年10月20日

丸山芳一

抗凝固療法の適切な使用のために

鹿児島市 ブルーウエーブイン鹿児島

2011年11月16日

丸山芳一

【座長】

「凝固の制御」

第33回日本止血血栓学会 鹿児島市

城山観光ホテル 2010年4月24日

丸山芳一

鹿児島Thrombomodulin Forum

鹿児島市 鹿児島東急ホテル 2010年5月28日

丸山芳一

外科 (消化器・乳腺・甲状腺・小児・肛門)

外科部長 濱之上 雅博

今年度、外科の人員構成は、下記のとおりであり2年間頑張ってくれた宮園 太志先生が7月に、野口 智弘先生が8月に転出され、7月より花園 幸一先生、8月に衣斐 勝彦先生が当科に赴任されました。当科の守備範囲として救急も含めた一般外科と専門性がもとめられる腫瘍外科があります。特に病院が“がん拠点病院”を標榜する限りは、診断から手術さらに術後の補助療法がシームレスに行われる必要があります。このため週一回の消化器カンファを中心に消化器内科・放射線科・麻酔科・病理との垣根のない症例検討は非常に有意義なものと考えています。最近では看護師さん・paramedical staffの参加もあり今後、院外の医療機関との病診連携にも繋げるものができればと思います。近年がんの治療法として化学療法が大きな部分を占めるようになり消化器癌 化学療法は手術との関連も強く外科で対応させてもらっています。ただ現在、各関係科の協力の成果として待機手術が増えてきており当院の性格として緊急手術を減らせない現状でかなり外科スタッフが over load となりつつあることは事実です。ただ医療の質を落とすと病院全体が減衰していくことは確実で、仕事量に見合う doctor・paramedical および comedical staff の増員配置を検討すべき時期ではないかと思えます。近年 外科は医学界の絶滅危惧種とも呼ばれ、その厳しい中で当科 staff は本当に頑張ってくれていると感謝しております。この忙しい中で柳田先生が消化器外科学会専門医を取得されてことは私にとってうれしいことの一つでした。今後この病院で勤務されるうえで staff すべての career の向上がはかれるよう最大限努力していくことが当科の使命と考えています。このため近年の外科の標準術式となりつつある鏡視下手術の進展・先進医療に遅れないよう大学との連携にも勤めています。また今年より本格的に始まった全国手術症例登録システム(NCD)にも参加しました日本消化器外科学会専門医制度研修施設取得等 様々な専門医制度への対応に努めています。

近年、高齢者の手術が増加し家族関係の問題・術後に行き先が決まらないなど社会的な問題に対応が求められることも多くなりました。連携室・事務の方々の協力なくしては手術をすることさえ難しいのが現実です。この場を借りて御礼申し上げます。

今後も外科としての仕事を明確にしつつ他科との協力を重んじ治療を行い、また新たな臨床知見に

かかわる発信ができればとよくばりつつ考えています。

【人事】

勤務者

<医師>

継続・ 今給察和典、牟禮 洋、濱之上 雅博、柳田 茂寛

(転出)

宮園 太志 : 平成 23 年 6 月まで
野口 智弘 : 平成 23 年 6 月まで

(転入)

花園 幸一 : 平成 23 年 7 月から
衣斐 勝彦 : 平成 23 年 7 月から

<診療アシスタント>

手塚 あゆみ

<看護師>

藺牟田 里美、田久見 麻美子、加治屋 加代子、立石 桂子、松田 めぐみ

【診療状況】

<外来患者状況>

平成23年度の外来受診者総数(延べ) 4,913名
初診患者: 620名
(そのうち71名は時間外や休日、深夜の患者)
再診患者: 4,293名

<入院患者> 563名/年

<手術症例>

手術総件数: 309件

麻酔別件数: 全身麻酔 244件
脊椎麻酔症例 65件

【手術症例内訳】

疾患部位	例数	悪性	良性	鏡視下
甲状腺	5	4	1	
乳	2	2		
食道	8	5	3	
胃	24	19	5	20
十二指腸・小腸	27	3	24	6
大腸	47	31	16	16
直腸	13	13		7
肝	23	21	2	
		Hr2以上 9例		
胆	68	5	63	
膵	2	2		
ソケイヘルニア	11			
大腿ヘルニア	2			
腹壁ヘルニア	2			
虫垂炎	24			19

【学会・研究会発表】

肝右葉大型HCCに腹腔鏡補助下肝右葉切除を行った一例

鹿児島肝癌研究会 鹿児島 2011年6月11日
 外科 柳田 茂寛、瀨之上 雅博、野口 智弘、
 宮園 太志、牟礼 洋、今給黎 和典
 消化器内科 田村 智章、古賀 哲也、
 放射線診断科 米山 知秀、小林 秀章、
 井手上 淳一、大久保 幸一、

絞扼性イレウスの早期診断におけるCT診断の有用性

第66回日本消化器外科学会 東京 2011年7月15日
 野口 智弘、瀨之上 雅博、宮園 太志、
 柳田 茂寛、牟礼 洋

腹腔鏡下手術にて修復しえた閉鎖孔ヘルニアの一例

鹿児島市外科医会 鹿児島市 2011年11月21日
 衣斐 勝彦、柳田 茂寛、花園 幸一、
 瀨之上 雅博、牟礼 洋

化学療法後のyellow liverと考えられる肝に右葉切除を行った一例

鹿児島肝癌研究会 鹿児島市 2011年11月26日
 外科 花園 幸一、瀨之上 雅博、柳田 茂寛、
 衣斐 勝彦、牟礼 洋
 病理診断科 白濱 浩、田代 幸恵、佐藤 栄一

門脈腫瘍栓の急速進展を認めた進行胃癌の切除例
 第63回鹿児島臨床外科学会総会 鹿児島市
 2012年3月24日
 衣斐 勝彦、瀨之上 雅博、柳田 茂寛、
 花園 幸一、牟礼 洋

【座長】

第73回日本臨床外科学会総会 東京 2011年11月19日
 瀨之上 雅博

呼吸器外科

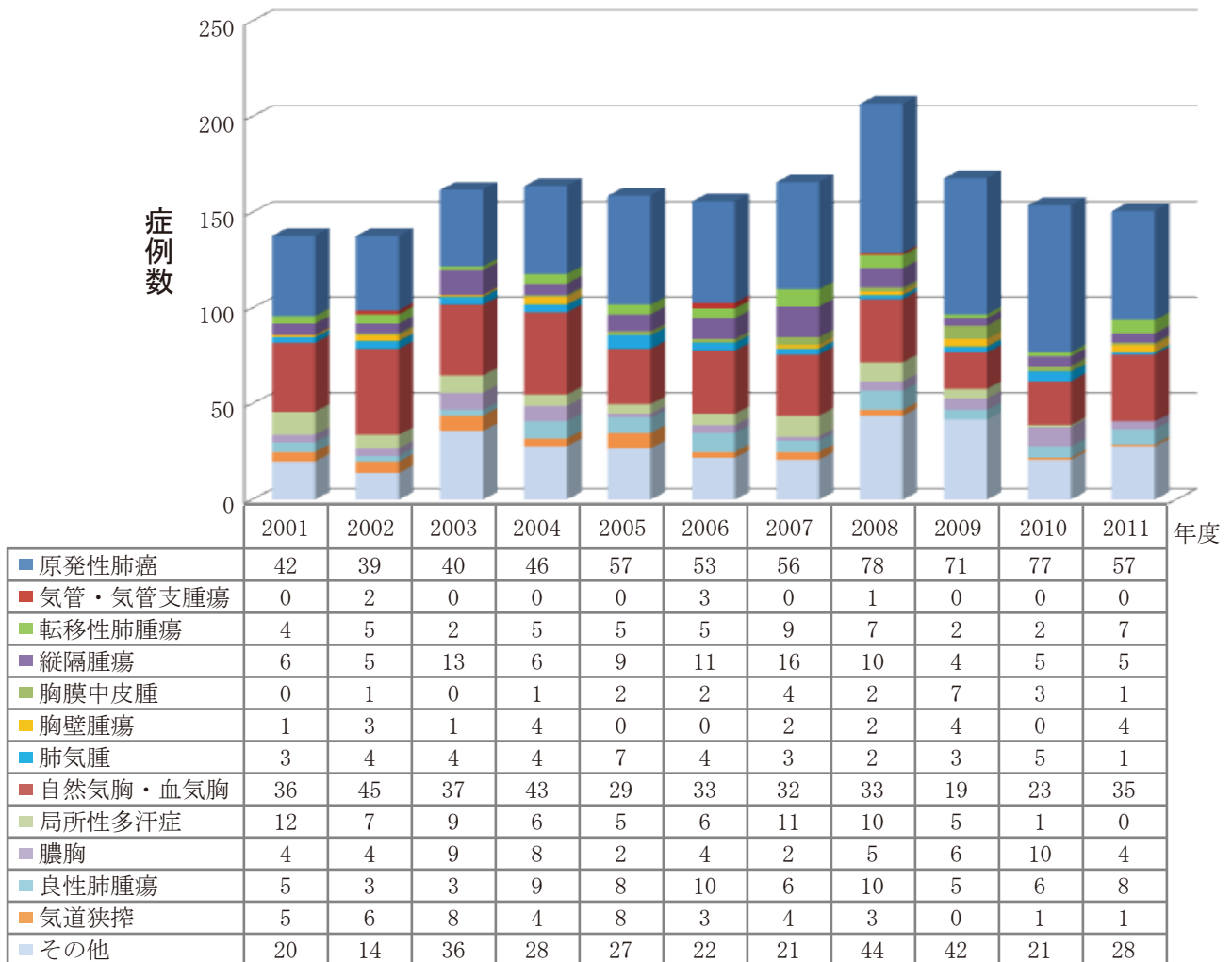
呼吸器外科部長 米田 敏

日本外科学会認定医・専門医・指導医	日本呼吸器外科学会専門医・指導医
日本呼吸器外科専門医認定機構専門医	日本胸部外科学会認定医・正会員
日本呼吸器外科学会評議員	九州外科学会評議員
日本胸部外科学会九州地方会評議員	日本肺癌学会九州支部会評議員
鹿児島呼吸器外科懇話会世話人	七隈癌治療フォーラム世話人

2011年年度は、巻幡 聰先生との2人体制で、それに伴い、呼吸器内科の諸先生に気管支鏡などの術前検査や術後化学療法などをお願いすることとなり、多大なご負担をおかけし、大変申し訳なく、また非常に感謝しております。我々もMan powerが足りず、症例減少は余儀なくされましたが、2012年4月からは増員が決まっており、もうしばらくの辛抱と思っています。

さて、今年度の手術件数は151例で、肺癌57例、転移性肺腫瘍7例、縦隔腫瘍5例、胸膜中皮腫1例、胸壁腫瘍4例、肺気腫1例、自然気胸・血気胸35例、膿胸4例、良性肺腫瘍8例などでした。手術症例の年次推移を、さらに本年度の業績を以下に示します。

【手術症例】



【2011年度 呼吸器外科 業績】

原著

原著論文名	発表雑誌	発行の巻(号):頁,年	著者
¹⁸ F-FDG PET for grading malignancy in thymic epithelial tumors: Significant differences in ¹⁸ F-FDG uptake and expression of glucose transporter-1 and hexokinase II between low and high risk tumors: Preliminary study	Eur J Rad.	81: 146-151, 2012	Nakajo M, Kajiya Y, Tani A, Yoneda S, Shirahama H, Higashi M, Nakajo M

学会発表

学会発表演題名	学会名	場所・月日・年	演者
肺平滑筋肉腫の一例	第28回日本呼吸器外科学会総会ポスター	大分、5月12-14日 2011年	酒瀬川浩一、巻幡 聡、 米田 敏
乳腺転移をきたした胸腺腫の一例	第28回日本呼吸器外科学会総会ポスター	大分、5月12-14日 2011年	米田 敏、巻幡 聡
分葉不全の対策-異常血管の同定-	第5回手術教育研究会	大分、5月12日 2011年	米田 敏、巻幡 聡
当院で手術された病理病期IIIA期非小細胞肺癌の検証	第48回九州外科	宮崎、5月20-21日 2011年	米田 敏、巻幡 聡
当院における非結核性抗酸菌症の手術症例の検討	第10回鹿児島胸部感染症研究会	鹿児島、7月22日 2011年	巻幡 聡、米田 敏
縮小手術（区域切除） 右肺S1区域切除	第44回日本胸部外科学会九州地方会（会長要望演題）	福岡、7月28-29日 2011年	米田 敏、巻幡 聡
血行再建を伴う悪性縦隔腫瘍 上大静脈再建により切除し得た胸腺癌の1例	九州呼吸器外科手術手技フォーラム	福岡、7月28-29日 2011年	巻幡 聡、米田 敏
当院における肺大細胞神経内分泌癌に対する根治的手術の 治療成績	第51回日本肺癌学会九州地方会	熊本、7月29-30日 2011年	内田章文、田上あさ子、窪田幸司 川島寿史、岩川 純、巻幡 聡、 米田 敏、井手上淳一、大久保幸一 田代幸恵、白濱 浩
当院における肺大細胞神経内分泌癌に対する根治的手術の 治療成績	第52回日本肺癌学会総会	東京、11月3-4日 2011年	内田章文、田上あさ子、窪田幸司 川島寿史、岩川 純、巻幡 聡、 米田 敏、井手上淳一、大久保幸一 田代幸恵、白濱 浩

整形外科・リハビリテーション科

整形外科部長 松永俊二

整形外科の平成23年度の活動状況を報告します。平成23年度の整形外科の手術総数は891例とやや前年より減少しましたが重症例の手術が増加しています。また人工膝関節置換術などの関節手術が前年に比べ増加しました。高齢化に伴い骨粗鬆症関連の骨折手術も年々増加しています。クリニックの患者数は平均約107名/日であり昨年度と変化はありませんでした。しかし、救急外来の対応件数は整形外科が圧倒的に多く、病院の過去最高数の救急車受け入れに貢献しています。入院患者総数は1,121名で平均稼働率は109.6%で常に満床状態でした。学術活動は日本の主要学会はもちろん海外の学会でも発表を行い今給黎総合病院の学術的評価を高めることができました。海外の学会で最優秀論文賞も受賞できたことは今給黎総合病院の研究レベルの高さを証明していると思います。鹿児島大学の関連病院として今給黎総合病院は整形外科医が勤務したい病院のひとつとして人気が高い病院であります。日本整形外科学会認定の臨床専門研修施設として今後益々臨床実地教育にも力を注いでいきたいと考えています。また公的業務として厚生労働省難治性疾患脊柱靭帯骨化症調査研究班の班員活動も行っており厚生労働省からも高く評価されています。

【スタッフ紹介】

〈常勤医〉 9名

今給黎尚典 (理事長)
松永俊二 (整形外科部長)
古賀公明 (整形外科部長)
石田育男 (整形外科部長)
東福勝宏 (専門医)
堀川良治 (専門医)
前田悠 (専門医)
海江田光祥 (研修医)

【人事異動】

入職 6名

宮口文宏 平成23年4月1日入職
前田悠 平成23年4月1日入職
海江田光祥 平成23年4月1日入職
海江田英泰 平成23年10月1日入職

退職 4名

八尋雄平 平成23年3月31日退職
坂元裕一郎 平成23年3月31日退職
筒井完明 平成23年3月31日退職
海江田英泰 平成23年12月31日退職
海江田光祥 平成24年3月31日退職

【地域貢献】

骨粗鬆：薬物治療の最近の動向

上町地区整形外科医と歯科医の連携のための
セミナー

鹿児島県民交流センター 2011年5月21日

講師 整形外科 松永俊二

【主催セミナー】

鹿児島外傷セミナー

2011年4月18日 今給黎総合病院 講義室

【症例検討会】

レ線カンファレンス 毎日
鹿児島脊椎症例検討会 1回/月

【診療実績】

昭和会クリニック

外来総数38,963名 新患4,507名 1日平均106.7名

今給黎総合病院

外来総数4,375名 新患1,239名 1日平均3.4名

入院総数 1,121名

平均稼働率 109.6%

平均在院日数 37.1日

手術総数 891件

【手術内訳】（平成23年4月1日～平成24年3月31日）

<u>脊椎（128件）</u>		膝関節視鏡下滑膜切除術	2
頸椎椎弓形成術	18	膝関節視鏡下半月板切除術	14
頸椎後方固定術	11	脛骨高位骨切り術	2
頸椎前方固定術	5	人工膝関節置換術	27
軸椎骨折骨接合術	1	人工膝関節再置換術	1
胸椎後方固定術	6	膝前十字靭帯再建術	8
胸椎椎弓切除術	2	膝外側側副靭帯再建術	1
胸椎前方固定術	5	足関節固定術	1
腰椎後方固定術	18	胸鎖関節固定術	1
脊椎短縮術	1	<u>腱・神経手術（35件）</u>	
腰椎開窓術	11	アキレス腱縫合術	3
腰椎前方固定	6	腱縫合術(手)	10
腰椎椎間板ヘルニア摘出術	19	腱鞘切開術	11
経皮的髄核摘出術	2	神経移行術	1
椎間板搔爬術	4	肘部管症候群手術	2
体外式脊椎固定術(ハローベスト装着術)	9	手根管開放術	3
脊髄腫瘍摘出術	1	神経縫合術	3
仙腸関節固定術	5	腱延長術	1
硬膜外血腫除去術	1	足関節靭帯再建術	1
CT下生検	2	<u>腫瘍手術（8件）</u>	
<u>骨折（386件）</u>		骨軟部腫瘍手術	7
鎖骨骨折手術	19	生検術	1
上腕骨近位部骨折手術	19	<u>抜釘術（123件）</u>	
上腕骨外顆骨折手術	4	<u>その他（62件）</u>	
上腕骨顆上骨折(含経皮的ピンニング)	14	開放創デブリードマン・創傷処理	53
上腕骨骨幹部骨折手術	3	創外固定術	6
肩甲骨骨折骨接合術	1	筋皮弁形成術	1
肘関節内骨折手術	3	外反母趾手術	2
肘頭骨折手術	4	<u>感染症手術（6件）</u>	
橈骨遠位端骨折手術	54	感染持続洗浄術	4
橈骨頭骨折手術	3	骨髓炎手術	2
前腕骨骨折手術	15	<u>救急外来手術（4件）</u>	
手指骨折手術	26	腱縫合術	2
骨盤骨折手術	16	血管縫合術	2
大腿骨頸部骨折手術	120		
大腿骨骨幹部骨折手術	10		
大腿骨顆上骨折	7		
大腿骨骨幹部開放骨折	1		
膝蓋骨骨折手術	11		
脛骨近位部骨折手術	11		
下腿骨骨折手術	14		
足関節脱臼骨折手術	15		
リスフラン関節脱臼骨折	1		
足舟状骨骨折手術	1		
踵骨骨折手術	3		
距骨骨折手術	1		
足趾骨折手術	6		
<u>切断術（13件）</u>			
下肢	12		
上肢	1		
<u>関節手術（127件）</u>			
肘関節形成術	4		
人工股関節置換術	15		
股関節脱臼観血的整復術	2		
人工骨頭置換術	48		
骨盤骨切り術	3		

【2011年業績】(平成13年1月1日～12月31日分)

【学会発表(国際学会)】

Clinical course of patients with asymptomatic ossification of the posterior longitudinal ligament - A multicenter prospective study
2nd Annual Meeting of Cervical Spine Research Society Asia Passific section
Paradise Hotel Busan 2011/4/30 Busan, Korea
Matsunaga S, Komiya S, Toyama Y

【学会発表(国内学会)】

ロコモティブシンドロームを呈さない男性高齢者の頸椎所見と特徴
第40回日本脊椎脊髄病学会 京王プラザホテル 東京 2011年4月23日
松永俊二、古賀公明、小宮節郎

腰椎変性側彎症に対して内視鏡下所除圧術を施行した症例の術後成績と腰椎アライメントの変化
第40回日本脊椎脊髄病学会 京王プラザホテル 東京 2011年4月23日
宮口文宏、山王朋佳、東午郎、廣田仁志、武富栄二、古賀公明、松永俊二、石堂康弘、米 和徳、小宮節郎

SRQDによる心理的評価とJOABPEQ-腰椎椎手術後の経時的変化
第40回日本脊椎脊髄病学会 京王プラザ 東京 2011年4月23日
谷口慎一郎、福井充、笠井裕一、加藤圭彦、金森雅弘、金山雅弘、川上守、紺野慎一、嶋村正、高橋和久、田口敏彦、竹下克志、田中信弘、田中靖久、谷俊一、種市洋、千葉一裕、中井定明、橋爪洋、細野昇、松永俊二、宮本雅史、和田英路、米延策雄

70歳以上の高齢者における脊椎手術の合併症
第75回西日本脊椎研究会 大正富山薬品福岡支店 福岡 2011年6月10日
宮口文宏、海江田光祥、堀川良治、東福勝宏、古賀公明、松永俊二、今給黎尚典、廣田仁志、坂本光、武富栄二、石堂康弘、山元拓哉、井尻幸成、米 和徳、小宮節郎

当院における超高齢女性大腿骨近位部骨折両側手術例の経年的変化
第121回西日本整形災害外科学会 九州大学医学部百年講堂 福岡市 2011年6月11日
坂元裕一郎、松永俊二、八尋雄平、堀川良治、東福勝宏、古賀公明、今給黎尚典

椎間関節造影により椎間関節と連続性を認めた頸椎滑液嚢腫の一例
第121回西日本整形災害外科学会 九州大学百年講堂 福岡市 2011年6月11日
東福勝宏、古賀公明、堀川良治、松永俊二、今給黎尚典、小宮節郎

当院における高齢女性大腿骨近位部骨折両側発生数の経年変化と要因

第38回日本股関節学会 鹿児島県民交流センター 鹿児島市 2011年10月7日
坂元裕一郎、松永俊二、古賀公明、今給黎尚典、宮口文宏、東福勝宏、堀川良治、小宮節郎

【論文その他発表】

頸椎後縦靭帯骨化症患者における神経症状発現予測に関する多施設研究-前向き再調査の最終報告-厚生労働科学研究費補助金・難治性疾患克服研究事業・脊柱靭帯骨化症に関する調査研究班
平成22年度総括・分担研究報告書71-74, 2011
小宮節郎、松永俊二、井尻幸成

Acute cervical spinal cord injury complicated by preexisting ossification of the posterior longitudinal ligament: a multicenter study.
Spine 36:1-6, 2011
Chikuda H, Seichi A, Takeshita K, Matsunaga S, Watanabe M, Nakagawa Y, Oshima K, Sasao Y, Tokuhashi Y, Nakahara S, Endo K, Uchida K, Takahata M, Yokoyama T, Yamada K, Nohara Y, Imagama S, Hosoe H, Ohtsu H, Kawaguchi H, Toyama Y, Nakamura K.

Facet arthrography in an unusual presentation of a lumbar hemorrhagic synovial cyst.
Neurointerv Surg. 2011 Dec 28.
[Epub ahead of print]
Tofuku K, Koga H, Komiya S.

Facet arthrography of a cervical synovial cyst.
J Neurointerv Surg. 2011 Jul 29.
[Epub ahead of print]
Tofuku K, Koga H, Komiya S.

Cervical pedicle screw insertion using a gutter entry point at the transitional area between the lateral mass and lamina.
Eur Spine J. 2011 Aug 10.
[Epub ahead of print]
Tofuku K, Koga H, Komiya S.

Combined Posterior and Delayed Staged Mini-open Anterior Short-segment Fusion for Thoracolumbar Burst Fractures.
J Spinal Disord Tech. 2011 Mar 21.
[Epub ahead of print]
Tofuku K, Koga H, Komiya S.

Conservative treatment with hyperbaric oxygen therapy for cervical spondylotic amyotrophy.
Spinal Cord. 2011 Jun;49(6):749-53. Epub 2011 Jan 18
Tofuku K, Koga H, Yone K, Komiya S.

頰椎後縦靱帯骨化が自然消失したと思われる一症例
J. Spine Res. 2 : 1968-1970, 2011
松永俊二、酒匂崇、武富栄二

当院における高齢女性大腿骨近位部骨折両側発生数の経年変化と要因
第37回日本股関節学会学術集会抄録号
317, 2011
坂元裕一郎、松永俊二、古賀公明、今給黎尚典、宮口文宏、東福勝宏、堀川良治、小宮節郎

ロコモティブシンドロームを呈さない男性高齢者の頰椎所見と特徴
J Spine Res 2:755, 2011
松永俊二、古賀公明、小宮節郎

腰椎変性即側彎症に対して内視鏡下所除圧術を施行した症例の術後成績と腰椎アライメントの変化
J Spine Res 2: 482, 2011
宮口文宏、山王朋佳、東午郎、廣田仁志、武富栄二、古賀公明、松永俊二、石堂康弘、米 和徳、小宮節郎

SRQDによる心理的評価とJOABPEQ-腰椎手術後の経時的変化
J Spine Res 2:560, 2011
谷口慎一郎、福井充、笠井裕一、加藤圭彦、金森雅弘、金山雅弘、川上守、紺野慎一、嶋村正、高橋和久、田口敏彦、竹下克志、田中信弘、田中靖久、谷俊一、種市洋、千葉一裕、中井定明、橋爪洋、細野昇、松永俊二、宮本雅史、和田英路、米延策雄

頰椎後縦靱帯骨化のある患者の将来の神経症状発現を予測できるか
日本医療機能評価機構. 医療情報サービスMindsトピックス. 2011.
http://minds.jcqh.or.jp/stc/0033/4/0033_G0000122_T0008543.html
[2011年12月8日 閲覧]. 2011
松永俊二

【講演】

骨粗鬆症：薬物治療のup-to-date
鹿児島市薬剤師会教育講演会
ホテルレクストン鹿児島 2011年3月3日
松永俊二

骨粗鬆症治療の新展開
新時代の骨粗鬆症治療講演会
パレスイン鹿児島 2011年3月25日
松永俊二

骨粗鬆症：新時代の薬物治療
鹿屋薬剤師会教育研修講演
リナシティーかのや 2011年4月15日
松永俊二

骨粗鬆症：薬物治療の最近の動向
上町地区整形外科と歯科連携についてのセミナー 鹿児島県交流センター 2011年5月21日
松永俊二

転移性脊椎腫瘍に対するpalliative surgery
Management Lecture for Focus on the bone health in Kagoshima
さがらパース通りクリニック 2011年6月17日
古賀公明

骨粗鬆症の最近の話題-薬物治療の重要性と問題点
人吉市薬剤師会教育研修講演
アンジェリーク平安 2011年9月22日
松永俊二

骨粗鬆症の最近の話題
北薩摩整形外科講演会 鶴丸会館
2011年10月26日
松永俊二

神経障害性疼痛と慢性腰痛
出水郡内科医会学術講演会 鶴丸会館
2011年12月2日
松永俊二

形成外科

形成外科部長 高木 信介

【当科の歴史】

1983年(昭和58年)、当院に鹿児島県で初めて形成外科が設立され、初代部長に宇田川晃一先生(千葉県立こども病院)が赴任されました。以来、昭和大学形成外科の関連施設として、鹿児島県の医療に携わってまいりました。

【診療内容】

形成外科とは

先天性および後天性の身体外表の醜状(形、色の異常)を対象とし、これを外科手技により機能はもとより形態(美容)解剖学的に正常(美形)にすることを手技とし、その目的は個人を社会に適応させるものである(鬼塚、1964)と定義されています。

形成外科は、体表を治す外科であり、他の外科には無い特徴があります。そして、日常に戻れるようにしてあげることが最大の目的としております。体表に関しては、生まれつきの疾患(口唇裂、口蓋裂、耳の奇形、手や足の指の奇形、あざ)や、後天性の疾患(腫瘍、外傷等)を取り扱っております。とくに生まれつきの疾患である口唇口蓋裂に関しては、平成23年4月より口唇口蓋裂診療班が発足し、集学的な治療が行えるようになりました。また、体表だけではなく神経、血管を顕微鏡でつなぎ合わせる機能的な再建(指の切断、重要な神経の断裂)、顔面骨折や悪性腫瘍切除後の欠損等の深部の治療も積極的に行っております。

【スタッフ紹介】

高木 信介 (たかぎ しんすけ)

2002年 昭和大学医学部卒業
2002年 昭和大学形成外科学教室入局
昭和大学病院、毛山病院(高知)、荏原病院(東京)、藤枝市立総合病院(静岡)、埼玉県立小児医療センター、昭和大学横浜市北部病院勤務
2008年～今給黎総合病院形成外科勤務
2010年4月～現職

日本形成外科学会専門医
日本手外科学会専門医
日本褥瘡学会認定師
医学博士

所属学会

日本形成外科学会、国際形成外科学会
日本マイクロサージャリー学会、

日本手外科学会、日本頭蓋顎顔面外科学会
日本口蓋裂学会、日本血管腫・血管奇形研究会
日本美容医療協会、日本美容外科学会
日本臨床皮膚外科学会、日本褥瘡学会
日本創傷外科学会

信太 薫 (しだ かおる)

2005年、佐賀大学医学部卒業
2005年4月～2007年3月、臨床研修
2007年4月 昭和大学形成外科学教室入局
横浜労災病院、昭和大学病院、
鶴岡市立庄内病院(山形)、
昭和大学横浜市北部病院、
熊本機能病院、佐賀大学病院勤務
2012年4月～今給黎総合病院勤務

日本形成外科学会専門医

所属学会

日日本形成外科学会、国際形成外科学会
日本頭蓋顎顔面外科学会、日本口蓋裂学会
日本美容外科学会、日本手外科学会
日本マイクロサージャリー学会
日本臨床皮膚外科学会、日本創傷外科学会
日本フットケア学会、日本下肢救済・足病学会
日本熱傷学会

石垣 達也 (いしがき たつや)

2006年 千葉大学医学部卒業
2006年4月～2008年3月、臨床研修医
2008年4月 千葉大学形成外科学教室入局
千葉大学病院
毛山病院(高知)
高知大学病院勤務
2011年4月～今給黎総合病院勤務

所属学会

日本形成外科学会、日本美容外科学会

非常勤医師

門松 香一 (かどまつ こういち)
昭和大学形成外科 講師

泉 朝望 (いずみ あさみ)
歯ならびの歯医者さん 院長

【診療状況（2010年1月～12月）】

外来診療

外来初診患者数	1,152名
外来手術件数	554件
外来延べ人数	5,947名

入院診療

入院患者数	370名
入院手術件数	587件

【手術件数】

外傷	257件
先天異常	34件
腫瘍	635件
癬痕・癬痕拘縮・ケロイド	51件
難治性潰瘍	80件
炎症・変性疾患	81件
美容	2件
その他	1件

顔面骨骨折	89件
切断(指、四肢)再接合	22件
四肢再建(有茎皮弁、遊離皮弁)	12件
皮膚良性腫瘍	516件
皮膚悪性腫瘍	78件
悪性腫瘍再建	41件
眼瞼下垂	28件
血管腫硬化療法	10件
耳下腺腫瘍	5件
顔面神経麻痺	9件

【学会活動】

2趾列欠損型裂足症に対する三角皮弁、矩形皮弁を用いた裂隙閉鎖法
第54回日本形成外科学会総会・学術集会 徳島 2011年4月13日
高木信介

新しい治療法-CGF (Concentrated Growth Factors) 療法-
第3回日本創傷外科学会総会・学術集会 札幌 2011年7月9日
高木信介

褥瘡治療における CGF (Concentrated Growth factors) 療法-
第13回日本褥瘡学会学術集会 福岡 2011年8月26日
高木信介

難治性潰瘍の新しい治療法
第15回九州昭和大学形成外科同門会学術集会 宮崎 2012年1月14日
高木信介

生体吸収性メッシュプレート (Lactosorb®) を用いて手術を行った眼窩骨折 16 例の検討
第15回九州昭和大学形成外科同門会学術集会 宮崎 2012年1月14日
加治佐卓也

Free vascularized fibular onlay graft1 を用いた慢性大腿骨骨髓炎の治療経験
第15回九州昭和大学形成外科同門会学術集会 宮崎 2012年1月14日
石垣達也

原子力発電所の減圧作業中の多発発生した Electric flame burn の治療経験
第22回日本熱傷学会九州地方会 佐賀 2012年2月25日
石垣達也

Adipofascial flap、遊離脂肪移植により一期的指間分離を行った基節型骨性合指症の1例
日本形成外科学会九州支部学術集会第88回例会 福岡 2012年3月10日
高木信介

足関節部に発生した著明な石灰化を伴う血管平滑筋腫の1例
日本形成外科学会九州支部学術集会第88回例会 福岡 2012年3月10日
加治佐卓也

【講義】

原田学園 鹿児島医療技術専門学校
2011年4月～6月 毎週火曜日
形成外科について
高木信介、加治佐卓也

脳神経外科

脳神経外科部長 西澤輝彦

【特色】

脳神経外科は当院の総合病院化に伴って平成元年に開設され微力ながら脳血管障害の外科的治療を中心に地域医療に貢献してきました。特に鹿児島で最も早くからカテーテルを用いた脳神経血管内治療を手がけ、脳動脈瘤の瘤内塞栓術や頸動脈狭窄症に対するステント留置術、頭蓋内脳血管の拡張術など虚血性脳疾患に対する血行再建術などを鹿児島の主導的施設として積極的に取り組んで来ました。特にこの数年、頸動脈ステント留置術は県内でも最も良好な治療成績を上げている施設の一つです。脳血管内治療を行うには高性能の脳血管造影装置(DSA)必要ですが、平成22年末に最新式の装置へと更新が行われました。現時点では鹿児島で最高レベルの画質が得られ、更に精度の高い安全な治療が可能となっています。

また、脳動脈瘤のクリッピング術などの開頭手術にも積極的に対応しており、この平成24年3月には手術用顕微鏡も蛍光血管撮影の行える最新式に更新も行いました。開頭手術、脳血管内治療の両者を患者さんの状況に応じて最適な方法を選択し、より良い治療成績を目指しています。

当院は年間2500台の救急車を受け入れる救急病院でもありその中で外傷系疾患、特に複数の領域に亘る高エネルギー外傷や多発外傷などの重症の患者さんが多いのが特徴です。多発外傷は複数科による迅速なチーム医療が必要で整形外科、形成外科、胸部外科、麻酔科などと良好な関係のもと治療に当たっています。また、当院は癌拠点病院の指定も受けており癌の脳転移への対応を依頼されることも多く摘出手術、生検術、定位的放射線治療などで協力しています。神経内科からは脳腫瘍、脳血管狭窄のみならず脳や脊髄の生検術の依頼や、形成外科とは協同で頭蓋骨や頭皮の形成術などもあり積極的に対応して行く方針です。

【人事・スタッフ】

今年度は救急車の受け入れを頑張ってくれた滝口先生が3月末で川内市民病院へ転勤となりました。交代でお隣の鹿児島医療センターから河井先生が赴任しました。毎週月曜日の病院全体の救急受け入れ担当となり、フットワークの軽さを生かして多数の救急患者の受け入れに貢献してくれました。平成24年1月からは加世田病院から専門医である松邨先生が増員となり、久しぶりに専門医2名を含む3名体制となり救急患者への対応に余裕が出来て手術症例も増えました。しかし、残念ながら4月からは河井先生が専門医試験に挑むために大学に移動となり再び2名体制となってしま

いました。病院規模や救急車の搬入台数から言って3名体制は必要な状況でありますので、今後も大学からの増員を要請して行きたいと思っています。

【スタッフ紹介】

〈常勤医〉

【部長（副院長、医療情報システム管理者兼任）】

西澤 輝彦（平成2年10月～）

1979年 鹿児島大学卒業

〈取得資格〉

医学博士

日本脳神経外科学会専門医

日本脳神経血管内治療専門医

日本脳卒中学会治療専門医

頸動脈ステント留置術実施医

鹿児島市立病院非常勤医師

〈所属学会〉

日本脳神経外科学会（評議員）、日本脳卒中学会、脳卒中の外科学会、日本脳神経血管内治療学会、日本小児脳神経外科学会、日本脳神経外科コンgress、脳ドック学会他

【医員】

松邨 宏之（平成24年1月～）

1997年 東京医科大学卒業

〈取得資格〉

医学博士

日本脳神経外科学会専門医

〈所属学会〉

日本脳神経外科学会、脳神経外科コンgress、脳卒中の外科学会

河井 宏志（平成23年4月～平成24年3月）

2005年 藤田保健衛生大学卒業

〈所属学会〉

日本脳神経外科学会、

日本脳神経血管内治療学会

〈非常勤医師〉

有田 和徳

鹿児島大学脳神経外科教授

平野 宏文

鹿児島大学脳神経外科講師

寺田 耕作

串木野脳神経外科センター

【診療実績】 入院患者疾患別分類 (2011年1～12月)

脳腫瘍	神経膠腫	5
	髄膜腫	3
	下垂体腺腫	1
	転移性脳腫瘍	11
	合計	20

小児神経外科	水頭症	
	二分脊椎	
	狭頭症	
	その他	
	合計	8

血管病変	クモ膜下出血(破裂脳動脈瘤)	8
	クモ膜下出血(原因不明)	0
	未破裂脳動脈瘤	10
	脳、硬膜動静脈奇形	1
	高血圧性脳出血	14
	脳梗塞	15
	血管腫	2
	動脈狭窄(閉塞)	23
	モヤモヤ病	0
	その他	3
	合計	76

脊椎・脊髄疾患	腫瘍	0
	脊椎症・ヘルニア	1
	その他	5
	合計	6

機能的脳神経外科	顔面痙攣	0
	三叉神経痛	2
	てんかん	11
	不随意運動	1
	その他	7
	合計	20

血管病変	合計	26
------	----	----

頭痛	合計	0
----	----	---

血管病変	頭蓋骨骨折	1
	急性硬膜外血腫	1
	急性硬膜下血腫	20
	脳挫傷	26
	その他	26
	合計	58

感染症	脳膿瘍	0
	髄膜炎	0
	その他	4
	合計	4

その他	合計	9
-----	----	---

合計 219人

【手術症例】

開頭術	腫瘍	全摘出術 / 亜全摘	3
		生検術	0
		合計	3
	動脈瘤	クリッピング(破裂)	4
		クリッピング(未破裂)	1
		合計	5
	動静脈奇形 / 血管腫	全摘出術	0
	血管吻合術	直接的血管吻合術	0
		間接的血管吻合術	0
	合計	0	
	開頭血腫除去術	脳内血腫	4
		硬膜外血腫	0
硬膜下血腫		0	
合計		4	
神経血管減圧術	くも膜嚢胞	3	
	嚢胞開放術	0	
	その他	0	
	合計	15	

穿頭術	硬膜下血(水)腫洗浄術	33
	定位的血腫吸引術	1
	脳室ドレナージ	2
	合計	36

短絡術	V-P シヤント	1
-----	----------	---

定位脳手術	シヤント再建術	5
	その他	5
	合計	10
	定位的血腫吸引術	1
生検術	0	
合計	1	

脊髄手術	生検術	0
------	-----	---

頭蓋骨形成術	3
--------	---

血管内 手術	動脈瘤	1
	血管形成術 (PTA)	4
	血管形成術 (STENT)	11
	その他	3
合計		19

その他	0
-----	---

合計 82件

【学会発表】

【論文】

Clinical presentation and treatment of aneurysms associated with basilar artery fenestration

Shunichi Tanaka, Hiroshi Tokimura, Tsuneo Makiuchi, Tetsuya Nagayama, Koji Takasaki, Tetsuzo Tomosugi, Kazuho Hirahara, Hitoshi Yamahata, Francia Campos, Teruhiko Nishizawa, Kazunori Arita
Journal of Clinical Neuroscience, (2011).
Volume 19, Issue 3, Pages 394-401

Use of a guide wire system to insert guiding catheters: Technical note

Tetsuya Nagayama, M.D., Ph.D., Yosuke Nishimuta, M.D., Sei Sugata, M.D., Teruhiko Nishizawa, M.D., Ph.D., and Kazunori Arita, M.D., Ph.D.
Journal of Neurosurgery, June 2010,
Volume 112, Issue 6, Pages 1232-1234

頸動脈ステント留置術後の長期予後

菅田真生¹, 永山哲也^{1,2}, 森正如¹, 西牟田洋介¹, 時村洋¹, 西澤輝彦³, 有田和徳¹
1鹿児島大学大学院医歯学総合研究科脳神経外科学, 2厚地脳神経外科病院脳神経外科,
3今給黎総合病院脳神経外科
脳卒中の外科 39(5): 329-333 2011

【全国学会】

短期・長期成績を考慮した頸動脈ステント留置術のデバイス選択

社団法人日本脳神経外科学会 第70回学術総会
横浜 2011年10月
菅田真生、永山哲也、牧内恒生、西牟田洋介
西澤輝彦、有田和徳

Distal balloon protection deviceを第一選択とした頸動脈ステント留置術-周術期合併症ゼロをめざして-

第27回日本脳神経血管内治療学会学術総会
千葉2011年11月24日
永山哲也, 細山浩史, 牧内恒生, 高崎孝二,
厚地政幸, 菅田真生, 西牟田洋介, 西澤輝彦,
有田和徳

【地区講演会】

第三回南九州脳血管内治療研究会 特別講演の部
座長 西澤輝彦

産婦人科

産婦人科部長 寺原賢人

月日が過ぎるのは早いもので1年間を振り返る時がやって参りました。私が当院に赴任してから24年が経過いたしました。振り返ってみると24年が経過していたと云った方が正解かもしれません。昭和63年1月1日当院が8科を新設し、総合病院を目指してスタートを切った時でありました。私は市立病院から赴任してまいりました。

各科の部長始め各科の担当医のほとんどが0からのスタートでありました。当時を振り返ってみると各科皆「他の病院には負けない」という自負を待っておりました。勢い、時には勇み足のような事態を招き、会長の御叱りを受けること幾たびかあったように記憶しております。年報も例年代わり映えない内容の繰り返しとなっていることに気付きました。今年は1年間を振り返るのではなく24年間の過去を振り返って見みることにしました。

開設当初最も期待したのは産科でありました。市立病院では当時1500例以上の分娩が有りましたので徐々に当院を受診して頂けるだろうとあまり気にしておりませんでした。私の判断は見事に外れました。妊産婦にとって安全安心の分娩を提供してきたつもりですがやはり時代の流れは少産少子時代へ突き進みホテルのようなきれいで食事豪華な施設を選ぶ時代となっております。後年、一部を改造して頂きましたが分娩数の増加には至っておりません。産科だけでなく婦人科も期待を裏切る結果となりました。婦人科手術件数も年間200件と増加しておりません。やはりマンパワー不足が否めません。平成5年から宮崎医大から医師の派遣を頂きました。今日まで延べ20数名の立派な先生方に助けて頂きました。手術件数はおよそ4500件、分娩数もほぼ同数となっております。助産師も他の分娩施設に比べて潤沢な配置となっておりますがやはりホテル並みのアメニティ願望に応えることはできず、新病院に期待せざるを得ません。

当院は平成9年からNICUを併設して頂きました。鹿児島県の周産期医療システムの基幹病院に組み込まれているため母体搬送が増加しておりまして正常分娩が少なく帝王切開率も50%に達しております。当然ながら医師が疲弊しています。産科、婦人科の担当医は併任ですので診療報酬額も産科が増えると婦人科が減少することになります。平成23年度は特にこの傾向が目立っております。やはり産科と婦人科はそれぞれに専任医を置き、病棟も分離すべきと思います。これも新病院に期待します。宮崎大学池ノ上病院長の格別なご配慮を頂き18年にわたり支えて頂きましたがこの度、大学の医師不足により平成24年5月31日をもちまして医師派遣終了となりました。

当院を支えて頂いた先生方に厚く御礼申し上げます。今後は鹿児島市立病院からご支援頂くことになろうかと思っております。1月から市立病院の若手の先生方にお世話になっております。また、次年度6月からは加藤明彦先生が新生児内科から産婦人科部長として異動されます。当面、市立病院派遣医を加えて3名で頑張りますのでご協力お願い申し上げます。

【平成23年度産婦人科勤務医】

寺原賢人	昭和63年1月1日	——	現在
丸山有子	平成19年6月1日	——	現在
加藤明彦	平成19年10月1日	——	現在
徳永修一	平成21年5月1日	——	平成23年12月31日
西村美帆子	平成24年1月1日	——	平成24年5月31日
宮島千草	平成24年1月1日	——	平成24年3月31日
宮崎ももこ	平成24年4月1日	——	平成24年7月31日

【年度別患者数】

年度	婦人科	産科	新生児科	計
S. 63	131	111		242
H. 1	138	136		274
2	145	139		284
3	175	139		314
4	142	147		289
5	167	173		340
6	177	177	40	394
7	173	172	46	391
8	175	172	59	406
9	160	179	107	446
10	130	157	82	369
11	175	206	100	481
12	161	214	81	456
13	220	236	117	573
14	244	183	124	551
15	276	179	145	600
16	243	199	150	592
17	191	209	127	527
18	197	186	170	553
19	196	258	168	622
20	208	265	142	615
21	243	246	164	653
22	255	245	177	677
23	129	263	205	597
計	4,451	4,591	2,204	11,246

【年度別統計】

		20年度	21年度	22年度	23年度
新患総数		845	826	971	959
入院数	婦人科	208	243	255	129
	産科	265	246	245	263
	新生児科	142	164	177	205
	計	615	653	677	597
手術件数	婦人科	129	112	118	106
	産科	62	78	78	89
	計	191	190	196	195
分娩数		185	175	173	168
	帝王切開	(54)	(70)	(71)	(83)

【年度別手術内訳】

		20年度	21年度	22年度	23年度
子宮筋腫	単純子宮全摘出術	17	11	24	24
	筋腫核出術	14	16	10	10
子宮腺筋症	単純子宮全摘出術	2	4	2	1
子宮脱	根治手術	3	10	4	0
子宮頸部癌	円錐切除術	12	13	20	22
	単純子宮全摘出術	2	3	3	3
	拡大子宮全摘出術	1	1	0	0
子宮体部癌	広汎子宮全摘出術	1	1	0	0
	単純子宮全摘出術	3	0	1	1
	拡大子宮全摘出術	1	3	6	1
卵巣嚢腫	広汎子宮全摘出術	1	2	1	1
	附属器切除術		21	21	15
	嚢腫摘出術	36	8	9	2
卵巣癌	根治手術	7	7	7	6
	化療後再開腹	1	1	0	0
不妊症他	内視鏡下手術	6	8	3	3
産科	帝王切開術	54	70	71	83
	子宮外妊娠手術	7	2	3	2
	頸管縫縮術	1	1	4	4
その他		21	8	7	17
計		190	190	196	195

【平成 23 年度悪性疾患内訳】

	手術	化療	手+放	手+放	放+化	放射線	計
子宮頸癌	22	1 (1)	0	0	0	0	23 (1)
子宮体癌	3	4 (2)	0	0	0	0	7 (2)
卵巣癌	3	2 (2)	0	8	0	0	13 (2)
計 (死亡)	28	7 (5)	0	8	0	0	43 (5)

新生児内科

新生児内科部長 丸山有子

【診療内容】

- ・ 当院のNICU・GCUは、NICU：9床、GCU：10床の合計19床の、県内では鹿児島市立病院NICUに次ぐ規模の新生児医療施設であり、Late Preterm Babyの管理、Preterm BabyのGrowing Care、およびFamily Careを担当するNICUです。
- ・ 外来業務として、新生児フォローアップ外来がありますが、当院NICUを退院したBaby達の発育発達をフォローしてゆく外来です。

【診療の担当】

- ・ NICU・GCUは、新生児科と産婦人科の医師で診療をおこなってきました。平成23年度は、新生児内科の丸山、加藤明彦医師と産婦人科部長の徳永修一先生の3名で日々の診療をスタートしましたが、12月で徳永先生が退職され、1月からは西村美帆子先生が着任されました。
- ・ 平成23年9月から、鹿児島市立病院の佐藤恭子先生がフォローアップ外来を担当してくださるようになり、金曜日のみ二人体制となりました。特に9～10月は病棟も手伝っていただきました。
- ・ 夜間当直業務は、当院と鹿児島市立病院新生児科と鹿児島大学産婦人科、小児外科の医師により行われました。
- ・ 看護スタッフは、平成24年3月現在、33名(保健師2名、助産師3名、看護師28名、看護助手1名)、専任作業療法士1名でした。
- ・ ハイリスク児の発達検査(新版K式発達検査)のために、鹿児島市立病院より吉永明美臨床心理士に来ていただいています。(月2回)
- ・ 療育指導外来には、東京小児療育病院より奈須康子先生に来ていただいています。(月1回)
- ・ 毎月1回、鹿児島大学小児科河野嘉文先生にNICU、GCUの回診をお願いしています。

【入院状況】(グラフと表を参照)

総入院数児数と体重別入院児数の経年推移をグラフ・表1に示しています。今年度の入院児総数は213名を記録し、過去最多となりました。表2は、入院経路別入院児数です。鹿児島市立病院からの新生児搬送は昨年度より微増傾向にありましたが、今年度はさらに増加して105名(49%)でした。表3に示すごとく、平成19年より急に増加した

人工呼吸管理施行例数ですが、23年度も44例となっています。

【外来状況】

平成19年より開始した新生児内科の外来業務ですが、フォローアップ外来とシナジス外来の総受診者数は増え続けています(表4)。

* 新生児フォローアップ外来・シナジス外来

23年度の年間受診者数はのべ1,219名でした。

当院のNICUを退院した児ばかりでなく、他の地域のNICUからの紹介患者も多くなってきています。シナジス外来を利用した児は196名で毎月1回の投与を受けました。

* 発達検査

23年度は76名が受けました。次第に需要は増加してきており、今後さらに検査枠の増加が必要な状況です。

* 療育相談外来

月1～2人ずつ行い、23年度は15名が受けました。

【入院児総数】

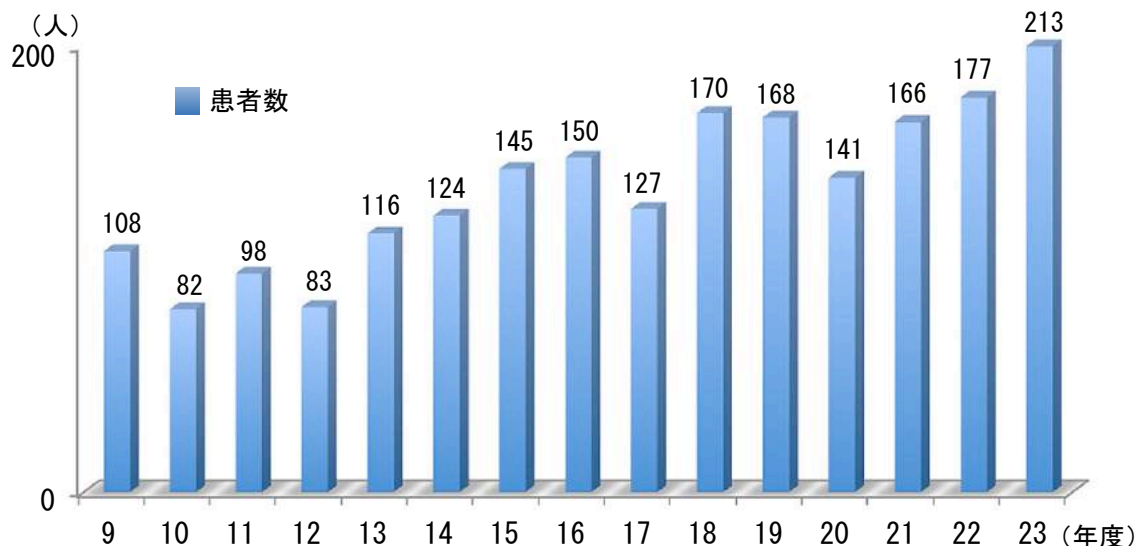


表 1 : 【出生体重別患者数内訳】

年度 (平成)	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
～999g	6	8	12	3	3	5	7	7	3	0	1	3	3	2	8
1000g～1499g	23	21	16	16	15	16	25	36	27	18	32	35	26	40	34
1500g～1999g	31	25	26	21	35	48	53	58	46	67	61	43	46	49	68
2000g～2499g	18	9	28	21	36	23	33	25	34	55	31	35	52	46	59
2500g～	30	19	16	22	27	32	27	24	17	30	43	25	37	40	44

表 2 : 【入院経路別患者数および院内出生率】

	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
当院外来管理後の院内出生	31	24	13	10	25	17	24	14	15	24	26	9	29	28	36
母体搬送後の院内出生	4	3	3	17	27	20	17	15	17	33	51	42	39	47	43
市立病院より新生児搬送	67	51	69	35	48	70	94	112	89	100	75	66	66	80	105
大学よりgrowing care入院											3	3	6	1	9
他院よりの新生児搬送	6	4	13	21	16	17	10	9		6	13	23	24	21	20
院内出生率 (%)	32	33	16	33	45	30	28	19	25	34	46	36	41	42	37

表 3 : 【人工呼吸管理施行患者数】

年度 (平成)	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
人工呼吸管理施行数(nasal CPAP)					1		5	4	5	9	15	19	12	44	33
人工呼吸管理施行数(挿管症例)	10	5	4	9	7	10	4	2	4	4	21	19	13	13	11
人工呼吸管理施行数	10	5	4	9	8	10	9	6	6	13	36	38	25	57	44

表 4 : 【シナジス外来患者数】

年度 (平成)	19	20	21	22	23
のべ人数 (人)	307	684	770	890	1219

【地域連携活動】

* 地域保健師と家族の面談を企画

以前より、ハイリスクな児が地域へ退院する際には地域の担当保健師へ情報を提供してきましたが、最近では、NICU入院中から保健師と家族の面談を企画し、その後の良好な関係作りを図っています。22年度は18例のご家族が入院中に保健師面談を受けましたが、23年度は症例数が倍増しており、36例となりました。安心して地域へ帰りました。

* 会議への参加

- 1) NICU長期入院重症児に対する支援体制に関する連絡会 (2011年5月23・24日)
古川 秀子
- 2) 平成23年度第1回こどもすこやか安心ねっと事業調整会議 (2011年5月26日)
原田 純子、丸山 有子
- 3) 2011年度 子ども家庭支援センターみらい「第4回連絡会議」 (2011年7月7日)
原田 純子、瀧本 千尋、島田 瑞希、中村 環、丸山 有子
- 4) 平成23年度 重症心身障害児・者関連施設連絡協議会 (2011年11月22日)
原田 純子、同免木 直美、江藤 理恵、本山 美穂、西田 雅子、中村 環、丸山 有子
- 5) 平成23年度 第3回こどもすこやか安心ねっと事業調整会議 (2012年1月13日)
原田 純子、同免木 直美、本山 美穂、中村 環、丸山 有子

【いろいろな活動】

* PIPC(早産児の両親学級)

10回開催し、104人の方が聴講してくださいました。

* スタッフのための勉強会

- ・ 月曜レクチャー：27 回開催
- ・ 茨 聡先生によるレクチャー：合計 11 回、新生児医療に関するレクチャーを行っていただきました。
- ・ NCPR シュミレーション：年間 2 回施行。
- ・ 看護師・作業療法士による勉強会：12 回

* 院外教育活動

- ・ 加藤明彦：久木田学園看護専門学校 看護科 (母性看護学・女性生殖器) 40 時間
- ・ 丸山有子：南学園 鹿児島医療福祉専門学校看護学科 疾病論VI(母性 正常・異常) 15 時間

* 施設見学・実習の受け入れ

- 1) 施設見学：九州新生児集中ケア認定看護師会 8 名

- 2) 実習：久木田学園看護専門学校 3 年 17 期生 40 名

【講演】

施設間連携～当院の概要と役割
九州内新生児集中ケア認定看護師会議
2011年9月10日
有村 こずえ

新生児治療室の現状～医療の現場から地域に帰る際に望む事～

出水保健所管内研修会 2011年9月26日
古川 秀子

光線療法中の看護

平成23年度宮崎県産婦人科病院医療従事者研究会 (第16回ひむかセミナー)
宮崎 2012年3月3日
古川 秀子

低出生体重児のフォローアップ外来の現状と今後の展望～地域支援とのよりよい連携～

平成23年度健やかな妊娠：出産支援事業研修会
2012年3月6日
古川 秀子

【学会発表】

複合型保育器使用時における体温管理
第 58 回九州新生児研究会 大分
2011 年 5 月 14 日
古川 秀子

当院 NICU における退院支援計画書の現状と今後の課題

第 59 回九州新生児研究会 沖縄
2011 年 10 月 22 日
宮崎 由香里

ハイリスク新生児ケアを担う配置転換となった看護師教育の課題を考える

第 21 回日本新生児看護学会学術集会 東京
2011 年 11 月 13 日
古川 秀子

当院における出生後早期の体温管理の現状と課題～Late Preterm 児の体温管理を考える～

第 21 回日本新生児看護学会学術集会 東京
2011 年 11 月 14 日
原田 純子

退院指導の栄養に関する見直し後の評価

第 5 回鹿児島県保健看護研究会 鹿児島
2012 年 1 月 20 日
山下 奈津紀

当院における出生後早期の体温管理の現状と課題
～Late Preterm 児の体温管理を考える～ 第2報
第14回新生児呼吸療法モニタリングフォーラム
長野 2012年2月16日
戸高 かおる

【院内看護研究発表会】

NICUにおける退院支援調整看護師の役割
2011年12月3日 宮崎 由香里

【著書】

ウイルス性母子感染症
丸山有子
周産期医学 41(11):1465-1470, 2011

小児科

小児科部長 玉田 泉

【診療内容・特徴】

平成23年度も銚之原昌医師、堀之内兼一医師、玉田の3名で診療致しました。また平成23年5月からは堀之内泉医師が非常勤として外来診療を行いました。一般外来のほか、堀之内兼一先生は小児腎疾患患者のfollow、また玉田は小児内分泌疾患の専門外来を実施しています。一般外来の特徴としては検査の出来る総合病院といった位置付けでの受診が多く、セカンドオピニオンを求めている検査を希望されての受診が多いようです。その他市県からの委託による乳幼児健診、予防接種業務を行っており、また新生児マスキリーニング、学校健診・学校検尿や生活習慣病予防健診での精密受診者の受け入れや精密検査後のfollowも行っています。入院業務では近隣の開業医の先生方から多くのご紹介を頂き、比較的軽症の一般小児疾患の入院加療、また専門性を生かした検査入院や教育入院などを行いました。

職員の子供さん対象の病児保育室も設置後3年が経過し順調に運営しています。子育て世代の職員のバックアップのためスタッフともども貢献できればと考えています。

【スタッフ紹介・講義 / 院外活動】

銚之原昌：小児科専門医、小児リウマチ専門医、
鹿児島県小児科医会監査
日本小児科学会鹿児島地方会監事
鹿児島子どもの虐待問題研究会 会長
鹿児島県膠原病研究会 代表世話人
鹿児島小児保健学会役員
日本小児リウマチ学会役員
鹿児島文化サロン 委員、
鹿児島小児膠原病父母の会ひまわりの会 委員
鹿児島市すこやか子ども元気プラン地域協議会 委員
鹿児島県保育所乳児保育研修会講師
放送大学講師
鹿児島県立短期大学非常勤講師（小児栄養学）
NPO法人子ども医療ネットワーク 役員

堀之内兼一：小児科専門医

日本補完代替医療学会学識医 学会理事
鹿児島市医師会学校腎臓病健診 委員
久木田看護専門学校 非常勤講師
European Univ. Vandrina 非常勤講師(漢方の講義)

玉田 泉：小児科専門医

日本糖尿病協会療養指導医

加治木女子高等学校看護学科専門課程 講師

鹿児島大学小児科 非常勤講師

【診療状況】

外来診療 外来患者数延べ 14,051人

入院患者実数 233人

いずれも例年に対し、増加となっています。

【診療実績】

入院疾患（延べ人数）

急性気管支炎・肺炎	144人
糖尿病（教育・コントロール）	18人
急性胃腸炎	17人
急性上気道炎・中耳炎	17人
内分泌精査 （成長ホルモン検査・糖尿病疑いを含む）	14人
心身症（不登校など）	6人
気管支喘息	5人
髄膜炎（疑い含む）	3人
腎疾患（ネフローゼ、AGNなど）	3人
熱性けいれん	1人
その他	16人

マイコプラズマ肺炎が多かったこと、糖尿病新規発症者が多かったことなどが入院増につながりました。また心身症での繰り返し入院や溶連菌感染後糸球体腎炎発症者があったことなども特徴です。

【院外活動 / 講演会 学会活動など】

銚之原昌

- ・ 鹿児島子どもの虐待問題研究会、開催(年6回)
- ・ 鹿児島県膠原病研究会 開催(年2回)
- ・ 3月3日児童虐待防止シンポジウム 開催
- ・ 8月3日鹿児島市すこやか子ども元気プラン地域協議会 委員として参加
- ・ 8月22日度鹿児島県保育所乳児保育研修会 講演「乳児保健の意義と役割」
- ・ 9月11日鹿児島文化サロン 委員として開催参加(年2回)
- ・ 9月14日南日本子ども健康セミナー 育児相談など

学会参加

- ・ 7月17～20日第55回日本リウマチ学会総会
- ・ 8月12～14日第114回日本小児科学会
- ・ 9月1～3日第58回日本小児保健協会学術集会
- ・ 10月14～17日第21回日本小児リウマチ学会学術集会

堀之内 兼一

- ・ 11月第10回小児腎疾患研究会
- ・ 11月5～6日第14回日本補完代替医療学会 理事として参加

玉田 泉

- ・ 1型糖尿病家族会「さくらんぼの会昭和会支部」指導医、年に2回定例会
- ・ 1型糖尿病サマーキャンプ(平成22年7月31日～8月1日)指導医として参加
- ・ ターナー症候群家族会、年に2回定例会参加

【2011 年業績】

原著

学校検尿システムの問題点が明らかになったループス腎炎の1例
永迫博信、堀之内兼一、久野 敏、武井修治、河野嘉文
小児科臨床 64(8):1849-1852, 2011

学会発表

成長ホルモン治療を開始したSGA性低身長症の10例
第146回日本小児科学会鹿児島地方会
鹿児島 2011年2月13日
玉田 泉、森田 智、大坪喜代子、溝田美智代

成長ホルモン治療を開始したSGA性低身長症の10例
第5回鹿児島間脳下垂体疾患研究会 鹿児島市
2011年5月13日
玉田泉、森田智、大坪喜代子、溝田美智代

ロタウイルス性腸炎後に急性腎後性腎不全を発症した1例
第147回日本小児科学会鹿児島地方会
鹿児島 2011年6月12日
川村順平、児玉祐一、永迫博信、水光正裕、水流尚志、豊島光雄、野村裕一、井出迫俊彦、川越真理、堀之内兼一、河野博文

松果体腫瘍を認めた中枢性思春期早発症の2女児例
第45回日本小児内分泌学会学術集会 大宮
2011年10月6-8日
玉田 泉、溝田美智代、大坪喜代子、森田 智、檜作和子

小児リウマチ性疾患に対するタクロリムスの検討
第21回日本小児リウマチ学会総会・学術集会
神戸 2011年10月14-16日
嶽崎智子、今中啓之、久保田知洋、山崎雄一、根路目安仁、野中由希子、赤池治美、銚之原 昌、河野嘉文、武井修治

【その他】

平成23年8月6日、平成24年3月3日には医師会主催のこども予防接種週間に参加して土曜の午後に予防接種業務を行いました

【平成 24 年度計画】

銚之原昌、堀之内兼一、玉田泉、非常勤で堀之内泉が引き続き診療にあたります。

泌尿器科

泌尿器科部長 中目康彦

平成24年4月より松下先生、井口先生、慶田先生に代わり鹿児島大学病院より立和田得志先生、坂口大先生、国立指宿病院より小原安雄先生が着任され4人体制で診療しています。また準教授を退任された西山賢龍先生の応援を頂き外来、手術をお願いしています。外来患者数は1日50人前後、入院は20人前後です。外来では新患担当医が初診の方を担当します。再診の方は原則予約制で、できるだけ待ち時間のないようにしています。当院はCT検査まですぐ行える体制ですので、その日のうちに診断、治療方針をたてるようにしています。血液透析は入院患者のみで日4-6名 基本的に月、水、金の週3回です。緊急透析は24時間体制で受けています。手術は経尿道的手術から腹腔鏡下手術まで行っています。西山先生、立和田先生は腹腔鏡手術の認定医で副腎摘出、腎摘出、腎尿管全摘はほぼ全例に行い前立腺全摘には腹腔鏡補助下に手術創7-8cmで行っております。女性関連の手術として腹圧性尿失禁に対してTVT、TOT手術。膀胱瘤などの骨盤内臓器脱にはTVM手術を泌尿器科が担当して行っています。また外照射以外の放射線療法として限局性前立腺癌に密封小線源治療（ブラキセラピー）を行っており平成19年11月以来280名の方が治療受けられています。

以上簡単ですが近況を報告いたしました。今後も急性期病院として患者さまの迅速は受け入れ、検査、治療に努力していきたいと思っております。

【2011年1月～12月手術統計】

分類	手術	件数
腎・尿管	腎摘除術	9
	腹腔鏡下腎摘除術	5
	腎部分切除術	1
	腎尿管全摘術	6
	腎瘻造設術	12
	経尿道的尿管碎石術	2
	腎生検	4
	腎嚢胞穿刺	1
	腎盂形成術	1
	経動脈的尿管拡張術	1
	尿管鏡・尿管ステント留置	5
副腎	腹腔鏡下副腎摘除術	3
膀胱	経尿道的膀胱腫瘍切除術	64
	膀胱全摘除術	2
	膀胱憩室切除術	1
	経尿道的膀胱碎石術	12
	膀胱切石術	1
	経尿道的凝固止血術	4

分類	手術	件数
尿道	TVM手術	8
	内尿道切除術	2
	尿道上裂形成術	1
	尿道ステント留置術	2
前立腺	経尿道的前立腺切除術	31
	前立腺全摘術	30
	前立腺密封小線源治療	78
陰茎・精巣	精巣摘除術	9
	精巣固定術	5
	環状切開術	3
	陰茎折症手術	4
	尖圭コンジローマ切除術	1
その他	後腹膜悪性腫瘍手術	1
	骨盤内膿瘍切開排膿術	1
	膣壁膿腫切除術	1
	肛門周囲膿瘍切開術	1
	その他創傷処置	1

眼 科

眼科部長 北村 昌 弥

平成23年度は昭和大学より禅野先生が着任し、北村部長、高橋先生との3人体制で診療に当たりました。
(尚、北村部長、高橋先生は平成24年3月で異動となりました。)

【外来スタッフ】

専任の川崎看護師、川口看護師、田久見看護師が主に担当しております。
検査・診療補助は上村視能訓練士、川畑視能訓練士、藤島視能訓練士、木之下、鶴之園、鳥原、園中、
受付は赤塚、泊で行なっております。

【外来診療体制】

平日午前は3人体制、午後は1人体制で外来診療を行っております。
土曜日は新患と予約のみ診療を行っております。

【外来診療実績】

平成23年度は新患数1,713名、再来数11,184名、合計12,897名が受診されました。
新患は近医および、離島など鹿児島全土からの紹介が多く、難症例の手術依頼も多数あります。
また外来では、普通診療の他にもレーザー治療や処置も多数施行しております。

【手術実績】

内眼手術、外眼手術総数は812件でした。
この中には非常に多数の難症例も含まれており、全身麻酔下での手術症例も多数ありました。

【入院治療】

4階西病棟が眼科病棟となっています。
田中師長を中心に看護・治療にあたっています。
高齢者はもとより、糖尿病、認知症などを有する患者様も多く、糖尿病内科の盛満先生をはじめ、循環器内科や麻酔科の諸先生方など各科の先生方には大変お世話になっております。
どうか今後ともよろしくお願い申し上げます。

気管食道・耳鼻いんこう科

気管食道・耳鼻いんこう科部長 昇 卓 夫

【平成23年度手術件数】

a) 耳科領域 40件 (悪性0)	
鼓室形成術	13件
先天性耳瘻孔手術	10件
鼓膜形成術	8件
鼓膜チューブ留置術 (全麻)	4件
外耳道形成	2件
顔面神経減荷術	1件
鼓膜切開術 (全麻)	1件
外耳道異物	1件

b) 鼻科領域 116件 (悪性1)	
鼻内副鼻腔手術ESS	61件
鼻中隔矯正術	30件
下鼻甲介切除術	19件
鼻副鼻腔腫瘍	3件
鼻骨骨折	2件
上篩根本術	1件

c) 口腔・上中咽頭領域 108件 (悪性2)	
口蓋扁桃摘出術	90件
アデノイド切除術	12件
口蓋扁桃切除術	3件
舌腫瘍摘出術	2件
口腔底腫瘍摘出術	1件

d) 喉頭・気管・食道 21件 (悪性0)	
声帯ポリープ切除術	11件
気管切開術	7件
食道異物(全麻)	1件
喉頭全摘術	1件
内視鏡下下咽頭腫瘍摘出術	1件

e) 顔面・頸部領域 24件 (悪性4)	
耳下腺腫瘍摘出術	8件
唾石 (顎下腺摘出)	5件
頸部リンパ節摘出	4件
頸部嚢腫	3件
がま腫摘出	2件
甲状腺半側切除	1件
頸部郭清術	1件

手術件数合計：309件

【平成23年度頭頸部悪性腫瘍症例】

a) 唾液腺	3例
b) 舌がん	2例
c) 鼻副鼻腔	1例

【主催学会】

鹿児島集談会は休会中

【講義】

鹿児島大学医学部学生への臨床実習
久木田学園看護専門学校

皮膚科

皮膚科部長 吉福明日香

昨年に引き続き、吉福明日香、児浦純生の両医師が担当した。

【診療内容・特徴】

診療内容・特徴は昨年の昭和会誌に述べた通りである。図表にまとめて示した。
(平成23年4月から平成24年3月)。

【スタッフ紹介】

児浦純生 (部長)

〈資格・他〉

鹿児島大学医学部 臨床教授

皮膚科専門認定医

医学博士

鹿児島大学医学部皮膚科教室 同門会長

日本皮膚科学会功労会員 (平成19年4月～)

〈所属学会〉

日本皮膚科学会

吉福明日香 (平成23年10月より部長)

〈資格 他〉

皮膚科専門医

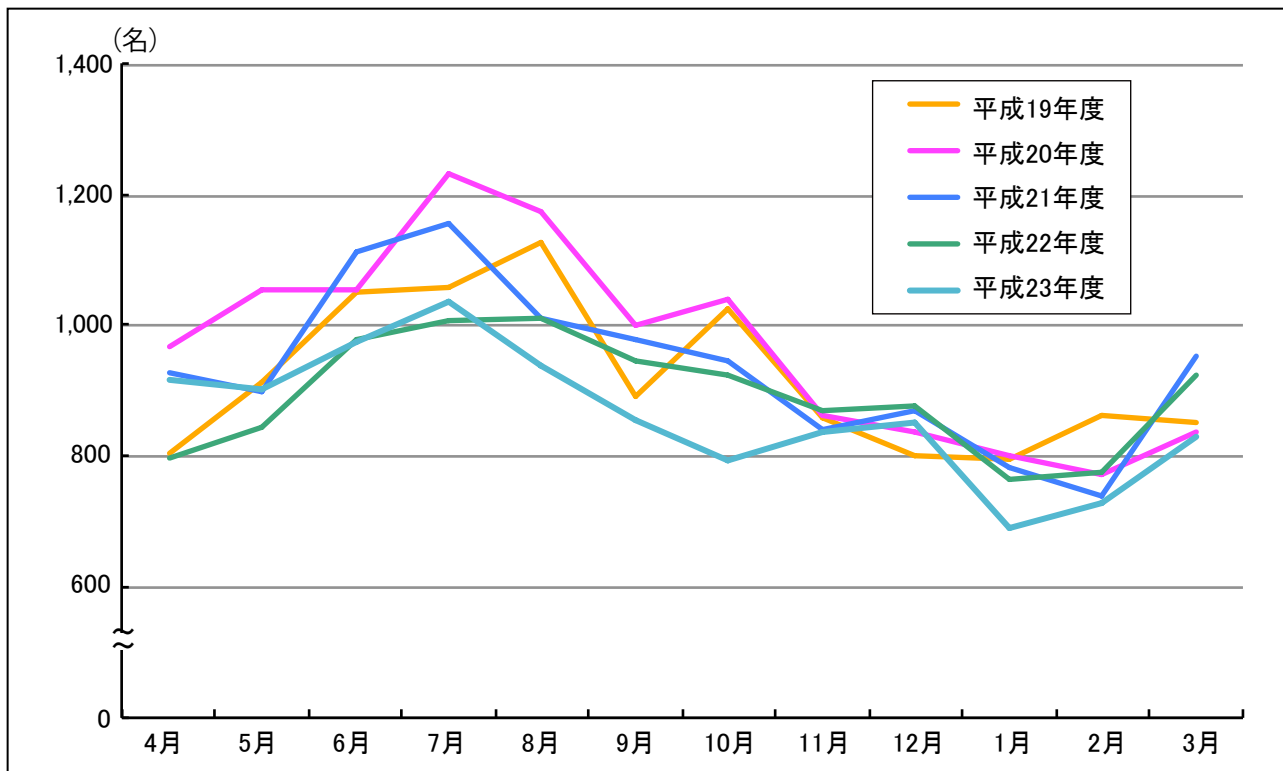
〈所属学会〉

日本皮膚科学会

【外来入院患者数の最近5年間の動態】

	19年度		平成20年度		平成21年度			平成22年度			平成23年度		
	外来	外来	新入院	延入院	外来	新入院	延入院	外来	新入院	延入院	外来	新入院	延入院
4月	815	983	6	45	941	3	26	808	6	105	931	7	120
5月	927	1,071	4	55	913	4	40	855	6	117	917	7	80
6月	1,069	1,073	3	42	1,133	6	66	994	14	154	989	9	81
7月	1,075	1,256	8	47	1,175	8	119	1,022	16	201	1,054	9	143
8月	1,148	1,194	5	47	1,027	9	101	1,027	10	117	953	1	9
9月	906	1,016	7	88	994	9	158	962	13	174	867	1	33
10月	1,041	1,059	5	45	960	8	147	938	9	163	804	5	35
11月	873	874	2	20	851	5	56	883	12	165	850	1	19
12月	813	849	4	40	882	7	174	889	12	161	863	5	65
1月	806	812	4	34	792	7	71	774	10	173	698	4	24
2月	876	782	9	65	748	6	57	786	12	137	736	2	31
3月	862	847	5	56	967	5	54	938	9	169	842	2	45
計	11,211	11,816	62	584	11,383	77	1,069	10,876	129	1,836	10,504	53	685
外来	初診	2,862	2,949		3,044			2,838			2,585		
	再診	8,349	8,867		8,339			8,038			7,919		
紹介患者数	186	166		200			190						

【外来患者数動態グラフ（5年間）】



【論文報告】

肺扁平上皮癌に合併したBazex症候群
 皮膚病診療 vol. 34 no. 3 2012
 猿渡 浩、金蔵 拓郎、児浦 純生

Granulocyte and monocyte adsorption apheresis as an effective treatment of Reiter disease
 Clin Exp Dermatol 2012 Apr;37(3)
 Yoshifuku Asuka et al.

麻 酔 科

麻酔科部長 池田 耕 自

当院における麻酔科の診療内容は手術麻酔、集中治療室等における重症患者管理等です。

今年度における麻酔科の陣容は、5名の麻酔科常勤医と他科からの、非常勤医1名の6名体制でした。さらに卒後研修医3人の研修を行いました。

平成23年度の今給黎総合病院における麻酔科管理症例数は2,433件でした。この内、緊急手術は267件(時間外173件)であり全体の11%(7%)程度を占めます。手術室は6室有り、最大で7件の同時並行手術が可能です。

各科別の麻酔件数は、整形外科761件(31.2%)、耳鼻咽喉科252件(10.4%)、外科316件(13.0%)、泌尿器科260件(10.7%)、産科婦人科155件(6.4%)、形成外科277件(11.4%)、呼吸器外科130件(5.3%)、歯科口腔外科170件(7.0%)、眼科82件(3.4%)、脳神経外科29件(1.2%)、その他1件といった現状でした。

麻酔症例内訳	
総症例数(緊急)	2,433(267)
全身麻酔	1,516
全麻+硬麻等	304
脊麻・硬麻等	587
伝達麻酔	5
その他	21

【各科別麻酔依頼件数】

	件数 (%)	緊急
整形外科	761 (31.2)	86
耳鼻咽喉科	252 (10.4)	11
外科	316 (13.0)	59
泌尿器科	260 (10.7)	10
産科婦人科	155 (6.4)	69
形成外科	277 (11.4)	16
呼吸器外科	130 (5.3)	1
歯科口腔外科	170 (7.0)	1
眼科	82 (3.4)	2
脳神経外科	29 (1.2)	12
その他	1	0

※麻酔科管理症例年次推移は次頁

【ICU】

平成23年度のICU入室件数は534件でした。各科の内訳は以下の通りです。

【各科別 ICU 入室者数】

科名	入室者数
外科	167
呼吸器外科	88
整形外科	67
泌尿器科	64
脳神経外科	81
神経内科	17
産婦人科	9
麻酔科	13
循環器内科	6
呼吸器内科	14
形成外科	19
消化器内科	7
総合内科	3
その他	0
合計	555

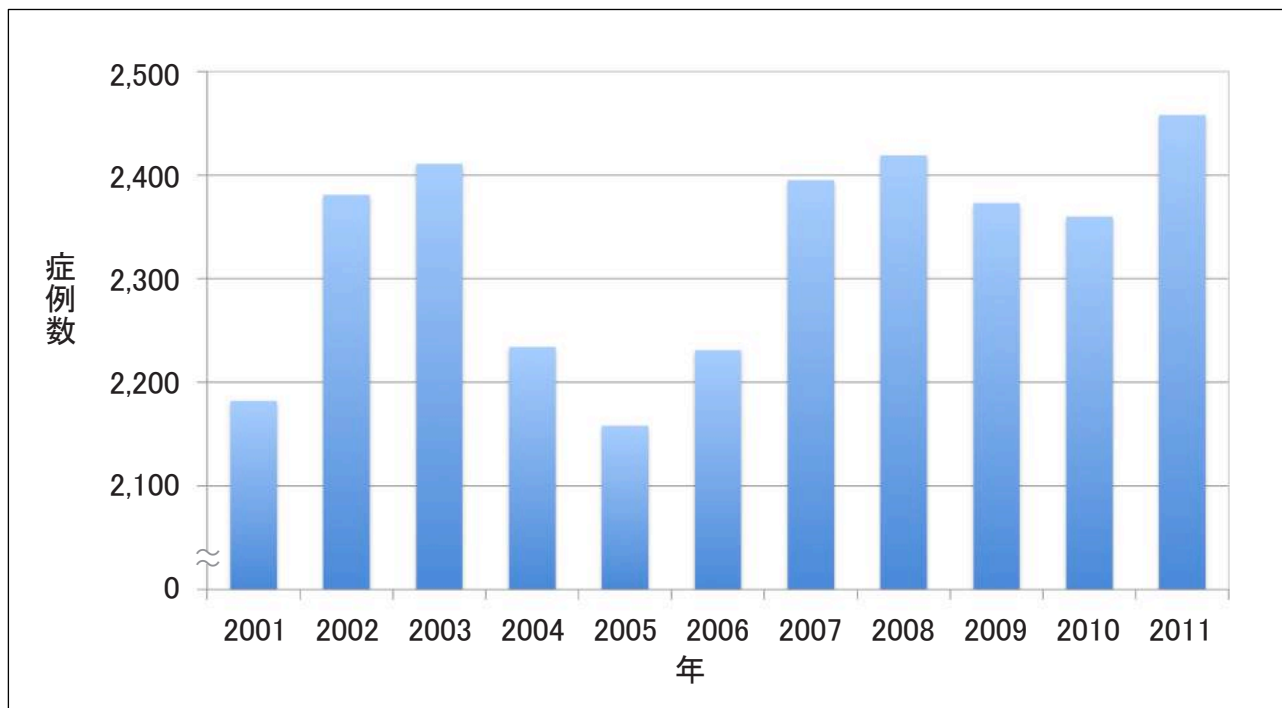
麻酔科管理患者は13名で内訳は急性薬物中毒2名、重症急性膵炎2名、心肺蘇生後2名、敗血症ショック2名、多発外傷1名、悪性リンパ腫1名、気道熱傷1名、一酸化炭素中毒1名、急性呼吸不全1名でした。

【麻酔科医名】

池田 耕自
 西山 淳 (平成17年10月～)
 川前 博和 (平成21年4月～平成23年6月)
 山下 順正 (平成23年7月～)
 山口 智美 (平成23年4月～)
 村山 裕美 (平成23年7月～)
 齊藤 健太 (平成22年10月～平成23年6月)

有川 明芳 (平成23年3月～4月)
 鶴木 泰自 (平成23年5月～6月)
 増田 秀一郎 (平成23年12月～平成24年1月)

【麻醉科管理症例数年次推移】



放射線診断科

放射線診断科部長 井手上 淳一

当院では CT (64 列 2 機、16 列 1 機)・MRI (1.5T 2 機)・RI・DSA・透視 2 機・乳房 X 線装置・マンモトーム機などを備えています。平成 23 年度には RI 装置、CT・MRI の更新し、PACS・フィルムレス運用にて画像診断をしています。また、これらの医療機器を広く公開利用し、地域医療へ貢献しています。

当院では診療の質向上のために整形・呼吸器・消化器・循環器・脳神経系カンファレンスなどが日常診療の合間に頻回に行われており、画像診断の向上に努めております。

IVR (治療) として肝癌や腎癌への動注塞栓術をはじめ、膀胱腫瘍や頭頸部癌への動注療法や救急疾患の中で外傷等による臓器損傷・膵炎や咯血などに対して血管内治療を積極的に取り組んでいます。今年度より 5 人の常勤にて日常診療を精力的に行うこととなりました。

【検査件数】

	件数
1. 一般撮影	47,281
2. 透視・造影撮影	1,772
3. 骨塩定量測定	368
4. X線CT	14,415
5. DSA/Angio	189
6. RI	668
7. MRI	5,704

【入院診療患者】

【主病名別患者数】

肝癌	28
肺癌	24
食道癌	12
転移性骨腫瘍	11
直腸癌	7
前立腺癌	3
膵癌	3
びまん性大細胞性 B 型細胞型リンパ腫	2
転移性脳腫瘍	2
乳癌	2
腹腔内リンパ節転移	1
MALT リンパ腫	1
めまい症	1
外傷性皮下血腫疑い	1
癌性髄膜炎	1
形質細胞腫	1
結節硬化型ホジキンリンパ腫	1
抗リン脂質抗体症候群	1
腰椎圧迫骨折	1
上大静脈症候群	1
腎血管金脂肪腫	1
前庭神経炎疑い	1
蘇生に成功した心停止	1
多発性脳転移	1
転移性前立腺腫瘍	1
転移性副腎腫瘍	1
脾動脈瘤	1
合計	112

【悪性新生物原発巣別患者数】

肝癌	34
肺癌	33
食道癌	12
直腸癌	7
乳癌	5
前立腺癌	3
膵癌	3
びまん性大細胞性B型細胞型リンパ腫	2
MALTリンパ腫	1
胃癌	1
形質細胞癌	1
結節硬化型ホジキンリンパ腫	1
大腸癌	1
合計	104

放射線治療科

放射線治療科部長 中 禮 久 彦

平成 19 年 10 月に当院での本格的な放射線治療のための「リニアックセンター」が開設されて早 5 年が経過しております。

その期間でリニアックの新規患者さんは徐々に増大し、最近は年間300名前後で推移しております。昨年（平成23年）は比較的少なく、全252名でした。治療医が私一人である関係から、院外からの当科紹介入院患者さんは診断医の井手上・小林・袴田先生にも協力をいただいで、全10名前後を当科病棟管理とさせていただいております。

泌尿器科の中目先生に協力いたしまして、前立腺の放射性ヨード小線源治療も施行させていただいております。昨年は全 78 名と地域民間病院としては全国でも指折りの件数を誇るまでになりました。

この 5 年間で紹介患者さんの増加、体幹部定位集光照射（SRT）の開始、強度変調放射線治療（IMRT）の施行、学会の認定（日本放射線腫瘍学会 協力認定施設）、放射線治療普及のための講演「もっと皆さんに知ってもらいたい放射線治療」等、充実した日常診療及び教育活動に従事させていただいております。

今年、鹿児島県から地域がん拠点病院の認定をいただいたことはさらなる発展に繋がるものと期待いたします。微力ながら鹿児島のがん患者さんのお役に立てるべく、謙虚に日々精進していきたいと考えております。

【平成23年】

【主な原発巣別 リニアック照射新患数 内訳】

呼吸器系(肺・気管・縦隔)	84名(内 肺：74名)
泌尿器系	46名(内 前立腺：30名)
消化管系(食道・胃・腸)	42名(内 食道：20名)
造血・リンパ系	30名
乳腺系	21名
肝・胆・膵系	17名

【主な転移 リニアック照射新患及び再患数 内訳】

骨	44件
脳	23件

【定位集光照射新患数 内訳】

肺：13名 肝：1名 脳：1名

緩和医療科

緩和医療科部長 松添大助

平成21年度に緩和ケアチームがスタートし、紹介患者数は21年；39名、22年；74名、そして今年は103名でした。

平成23年4月から精神腫瘍担当医として鹿児島大学精神神経科から小玉哲史先生に週1回(木曜日)の非常勤で来ていただいています。それぞれの診療科において精神科医のニーズは高いようで、そろそろ週1回の診療ではさばききれないくらいの依頼がきています。

がん拠点病院の指定を受け、これからさらに緩和ケアの重要性も高まっていくものと思われまます。

【緩和ケアチームメンバー】

専従医師：松添大助

精神腫瘍担当医師

：小玉哲史(非常勤)

専従看護師：大西玲子、森友紀(6/1-11/30)

保健師：植屋明代

薬剤部：財間富士子、久津輪久世、
富永修平、前島一友

リハビリテーション部

：古市寿子、宮之原俊一、木原智美

栄養管理部：上平田美樹、鈴木聖子

【学会活動等】

当院における緩和ケア連携の現状

鹿児島市の緩和ケア連携に関する懇話会

鹿児島市 2011年1月9日

松添大助

暴力的言動のある家族への対応やスタッフの心のケアについて

鹿児島緩和ケアチーム研修会 鹿児島市

2012年6月11日

松添大助

在宅診療継続の問題点

第16回日本緩和医療学会学術大会 札幌市

2011年7月29日

松添大助、植屋明代、大西玲子

骨転移痛のマネジメントについて

鹿児島緩和ケアチーム研究会 鹿児島市

2011年11月12日 松添大助

【主催研修会】

がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会

ホテル福丸 2011年10月15-16日

【診療科別紹介患者数】

23年度	
呼吸器内科	32
外科	28
泌尿器科	11
呼吸器外科	11
婦人科	3
血液内科	3
整形外科	2
消化器内科	3
放射線科	1
神経内科	1
循環器内科	1
総合内科	3
脳外科	1
皮膚科	2
他院	1
計	103

【主な依頼内容】(複数重複あり)

疼痛コントロール	51	49.5%
メンタルケア	44	42.7%
家族ケア	30	29.1%
退院支援	14	13.6%
在宅診療	16	15.5%

【転帰】

介入終了	9
自宅退院	5
死亡退院	23
ホスピス転院	19
その他転院	14
在宅診療	16
継続中	17

病理診断科

病理診断科部長 田代幸恵

本年度は、昨年度末に導入した自動免疫染色装置（ロッシュ及びニチレイ）により、免疫染色がすべて器械染色となりました。安定稼働まで比較的短時間で移行できたのは何より担当技師の新村の努力の賜物です。器械導入により担当技師に余力が生まれる予定でしたが、予想以上の検体の増加（対前年比126%）および器械の管理に必要な労力のため、忙しい1年となりました。

近年、腫瘍細胞の遺伝子変異や異常蛋白発現状況による個別化治療が行われるようになり、病理標本での遺伝子異常の検索が日常的に行われるようになりました。当院でも遺伝子異常の検索は外注しておりますが、免疫染色による判定は可能なかぎり院内で行うこととしております。現在、ER, PgR, KIT (CD34), EGFR, HER2, ALK1の蛋白発現検索は院内で行うことが出来るようになり、迅速な診断報告ができるようになっております。

一昨年度からスタートした滑膜肉腫およびPNET/ユウイング肉腫グループに関するRT-PCRは検体が非常に少なく、他の病理施設への周知が必要と思われます。また、悪性リンパ腫関連のPCRを本年度からスタートする予定でしたが、免疫染色による多忙のため来年度にずれこむこととなりました。

細胞診では婦人科の子宮頸部検体の診断がベセスダシステムへの移行となりました。それに伴い統計様式もそれに合わせたもの（日本臨床細胞学会に準拠）といたしました。また一部の検体では液状化検体処理の導入、またセルブロック作成のルーチン化などにも取り組んできました。

昨年度からスタッフが実質0.5人減の状態となりました。そのため可能な限り機械化を推進し、自動染色・封入装置、バーチャルスライドシステムおよび画像解析ソフトの導入、病理診断支援システムの刷新などに努めていかなければなりません。

【病理部スタッフ】

医師

- 白濱 浩 （日本病理学会病理専門医、日本臨床細胞学会細胞診専門医、
日本病理学会病理専門医研修指導医、臨床検査管理医、鹿児島大学医学部臨床教授）
- 田代 幸恵 （日本病理学会病理専門医、日本臨床細胞学会細胞診専門医、
日本病理学会病理専門医研修指導医、鹿児島大学医学部臨床教授）

技師

- 徳永 敬之（臨床病理技術士）
- 肥後 真（臨床検査技師、国際細胞検査士）
- 新村 泰子（臨床検査技師）
- 田辺 尚子（臨床検査技師、国際細胞検査士）

組織診および細胞診検体数

	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度
組織件数	3,791	4,736	3,232	3,644	3,346
細胞診件数	3,315	3,011	2,855	3,168	2,751

- ・術中迅速診断：255件（内、院外からの依頼：9件）
（H19年度：319件、H20年度：292件、H21年度：274件、H22年度：225件）
- ・院外からの血液疾患関連Marker検索および診断依頼：44件
（H19年度：30件、H20年度：22件、H21年度：21件、H22年度：22件）
- ・院外からの免疫染色依頼（パラフィン切片による）：1257件
（H19年度：924件、H20年度：1007件、H21年度：1086件、H22年度：966件）

組織診断統計（2011.04.01～2012.03.31）

	生検		内視鏡切除など		切除		合計
	全件	(悪性)	全件	(悪性)	全件	(悪性)	
心血管	0		0		2	(1)	2
血液・骨髄・脾	16	(6)	17	(17)	5	(1)	38
リンパ節	23	(17)	34	(34)	210	(61)	267
鼻・咽頭・喉頭	27	(6)	30	(30)	13		70
肺	106	(35)	5	(5)	105	(64)	216
胸膜・縦隔・腹膜	12	(6)	1	(1)	23	(6)	36
口腔・唾液腺	18	(3)	4	(4)	60	(4)	82
食道	54	(14)	0		6	(5)	60
胃・十二指腸	501	(47)	23	(23)	33	(22)	557
小腸	13	(1)	1	(1)	19	(5)	33
大腸・肛門	273	(47)	247	(247)	101	(49)	621
肝・胆・膵	5	(2)	0		106	(33)	111
腎・尿路男性	181	(116)	90	(90)	134	(65)	405
女性器	46	(11)	35	-35	103	(20)	184
乳腺	12	(6)	0		5	(5)	17
内分泌	2	(1)	0		12	(5)	14
中枢末梢神経	0		0		5	(2)	5
耳・眼	0		1	(1)	5		6
皮膚	210	(47)	7	(7)	743	(87)	960
骨・関節	25	(8)	0		19		44
軟部	9	(3)	1	(1)	102	(9)	112
その他	8	(5)	76	(76)	4	(1)	88
合計	1,541	(381)	572	(572)	1,815	(445)	3,928

細胞診断統計 (2011. 04. 01~2012. 03. 31)

	陰 性	擬 陽 性	陽 性	材料不適	合 計
婦人科(内膜)	193	5	6	1	205
呼 吸 器	446	22	125	11	604
消 化 器	36	11	11	0	58
泌 尿 器	206	18	27	0	251
乳 腺	28	8	5	2	43
甲 状 腺	16	8	8	6	38
体 腔 液	163	4	52	0	219
リ ン パ 節	3	3	8	1	15
そ の 他	36	2	5	0	43
件 数	1,127	81	247	21	1,476

婦人科 (腔頸部)

NILM	ASC-US	ASC-H	LSIL	HSIL	AGC
1,158	38	14	33	20	2
SCC	Adeno. Ca.	Other Malig	検体不適		合計
2	2	2	4		1,275

総件数 2,751

【学会活動】

鼻咽頭 NK/T 細胞リンパにおける遺伝子の点突然変異は発癌前の外的酸化ストレスによる可能性が高い
第100回日本病理学会総会 横浜
2011年4月28-30日
蓮井和久、賈心善、田代幸恵、青笹克之、佐藤栄一

濾胞性リンパ腫の穿刺吸引細胞診
- その精度を高める -
第52回日本臨床細胞学会総会 福岡
2011年4月20-22日
藤崎人美、中島真由美、小山田誠朋、松木田純香、末吉和宣、田代幸恵、白濱浩

鼻咽頭 NK/T 細胞性リンパ腫における酸化ストレスの免疫組織化学的検討
第51回日本リンパ網内系学会総会 福岡
2011年6月4-7日
蓮井和久、賈心善、竹屋元裕、吉武淳、赤池孝章、青笹克之、田代幸恵、竹内亨、出雲周二、河野嘉文、金蔵拓郎、栄鶴義人、松山隆美、佐藤栄一

鹿児島 Lymphoma Conference 2011
城山観光ホテル 2011年7月23日
田代幸恵 Commentator

右大腿皮膚腫瘍
第125回鹿児島病理集談 今給黎総合病院
講義室 2012年2月21日
白濱浩

【論文】

Diffuse large B-cell lymphoma within a cavernous hemangioma of the cavernous sinus.
Hirofumi Hirano, Yukie Tashiro, Shingo Fujio, Masamichi Goto, Kazunori Arita
Brain Tumor Pathol. 2011 Oct;28(4):353-8.

アルコール性肝疾患を背景にした focal nodular hyperplasia-like nodule の一例
渡邊照彦, 松枝秀樹, 田代幸恵, 白濱浩, 夏越祥次
鹿児島大学医学雑誌 第63巻 第3号 67-72
頁 2012年1月.

Clinical significance of primary lesion FDG uptake for choice between oesophagectomy and endoscopic submucosal dissection for resectable oesophageal squamous cell carcinomas
Nakajo M, Nakajo M, Tani A, Kajiya Y, Shimaoka S, Matsuda A, Nioh T, Nihara T, Suenaga T, Tanaka S, Shirahama H, Higashi M, Koriyama C.
Eur Radiol. 2011 Nov;21(11):2396-407

在宅診療科

在宅診療科部長 林 茂 昭

【診療科紹介】

平成24年3月現在、在宅診療科は昨年同様常勤医2名体制をとっております。通院が困難で自宅療養を希望されている方を対象に訪問診察を行っています。訪問診察には当科2名の医師が中心となり、他科の先生の協力も頂き、また理学・作業療法士及び在宅医療部の保健師・看護師と連携を図りつつ訪問診察を行っています。基本的に、2回／月の定期訪問診察を行っています。

平成23年度は4人の先生に協力いただいております。途中、今給黎医師、荒田医師は諸事情で診察に行く事ができなくなりました。しかし、新たに徳永先生、三宅先生の御協力を得る事ができ、患者様に影響なく診療ができております。

【スタッフ紹介】

常勤医

林 茂昭 日本内科学会認定内科医、日本内科学会総合内科専門医、日本神経学会専門医
甲斐 太 日本内科学会認定内科医、日本神経学会専門医

訪問診察医師

甲斐、林、今給黎 尚典(整形外科)、荒田(神経内科)、徳永(神経内科)、生野(総合内科)、二木(総合内科)、三宅(総合内科)

【診療状況】

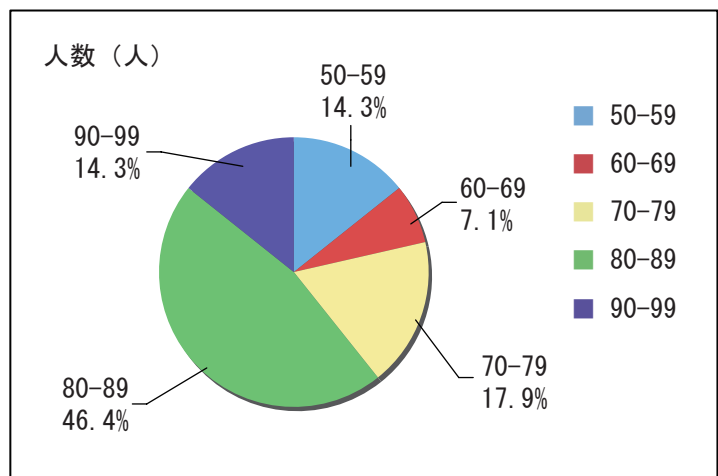
平成23年12月31日において当院在宅医療部の訪問診察を受けている方は28名となっております。全身状態が悪化した場合は、在宅で経過を見る場合もあれば、入院での治療も行っており、自宅療養が再度できるように対応しております。平成23年の診療実績は下記のような状況であります。

【年間訪問診察患者数】

年間訪問診察患者総数 28名（男性 15名 女性13名）

【患者年齢】

年代	人数（人）
40-49	0
50-59	4
60-69	2
70-79	5
80-89	13
90-99	4
100以上	0
合計	28



【平成 23 年 月別訪問診察人数】（平成23年1月1日～平成23年12月31日）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
人数	20	18	20	21	18	21	20	20	23	22	22	22
（入院数）	1	3	3	3	6	1	2	2	0	1	1	1
終了：死亡	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0
終了：その他	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0

【主疾患名】

疾患	（人）	疾患	（人）
神経系疾患	16	腫瘍	1
循環器疾患	3	内分泌系・代謝疾患	1
筋・骨格系、結合組織	3	損傷・中毒、外因の影響	3
呼吸器疾患	1	合計	28

【平成 23 年度 月別訪問件数】

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計（件）
訪問診察	42	37	47	40	34	39	49	48	48	47	47	60	538
訪問リハビリ	12	12	12	12	13	13	12	13	12	13	14	12	150
訪問看護	72	75	92	89	66	110	106	101	106	102	108	117	1,144
合計（件）	126	124	151	141	113	162	167	162	166	162	159	189	1,822

【平成 22 年度 月別訪問件数】

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計（件）
訪問診察	51	55	73	50	57	47	57	48	44	46	43	48	619
訪問リハビリ	11	11	13	13	10	12	11	11	7	7	11	16	133
訪問看護	94	113	136	101	79	92	88	92	98	89	81	86	1,149
合計（件）	156	180	222	164	146	151	156	151	149	142	135	150	1,902

【平成 21 年度 月別訪問件数】

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計（件）
訪問診察	41	40	45	46	50	43	56	52	51	46	55	65	590
訪問リハビリ	11	11	13	13	10	12	11	11	7	7	11	16	133
訪問看護	69	74	86	79	66	77	102	106	102	97	109	133	1,100
合計（件）	121	123	145	136	129	136	171	171	164	155	176	211	1,838

歯科口腔外科

歯科口腔外科部長 吉田 雅 司

【診療内容】

歯科口腔外科は、平成18年8月1日に開設されました。標榜科としては歯科と歯科口腔外科として日常診療を行っています。外来診療は、歯科医師3名、歯科衛生士2名、歯科技工士1名、および受付1名の常勤スタッフと数名の非常勤歯科医師で行われ、当院の入院患者やスタッフ、さらにご紹介いただいた患者様を主に診療しています。また、昨年からは長崎大学歯学部口腔外科の関連病院となり、常勤歯科医師の派遣が行われるようになり、現在は河野俊広先生が赴任しています。

診療は、主に昭和会クリニックで外来診療を、今給黎総合病院で入院診療を行っています。

1. 外来治療

- 1) う歯、根管治療、義歯やブリッジなどの補綴治療などの一般歯科治療
- 2) 埋伏智歯抜歯を中心とした抜歯、歯の破折や歯槽骨骨折、歯根のう胞や粘液のう胞などの摘出術、顎関節症、歯科インプラント治療に関連した治療
- 3) スポーツ選手に対するマウスガード（マウスピース）の作製や咬み合わせのチェックなどを行うスポーツ歯科

2. 入院治療

- 1) 顎矯正手術：最近の傾向としては、小下顎による睡眠時無呼吸症候群患者の顎骨形成術が増加しています。
- 2) 有病者の抜歯や歯科治療
- 3) さまざまな口腔外科的疾患の手術や治療に対応しております。

本院は、他科との連携が非常にスムーズで、有病者の患者様はもちろんのこと、常に安心できる歯科医療を提供できる環境が整っております。その一環として歯科と歯科口腔外科との役割分担化を図り、4月から鎌田先生が歯科部長に就任しました。さらに、鎌田部長を核として院内に口腔ケアチームを立ち上げ、入院患者様の口腔ケア充実させることにより、嚥下性肺炎の防止や術後合併症の減少につながるよう活動しています。

また、看護師やその他のスタッフの方々の献身的な支えがあって、充実した診療が行えていると思います。さらに、努力し、今給黎総合病院・昭和会クリニックから情報発信が出来るよう、頑張っていきたいと思います。

【スタッフ紹介】

吉田雅司（歯科医師）今給黎総合病院常勤、専門分野：歯科口腔外科、スポーツ歯科

鎌田ユミ子（歯科医師）昭和会クリニック常勤、専門分野：一般補綴、一般歯科 老年歯科

河野俊広（歯科医師）昭和会今給黎総合病院常勤、専門分野：歯科口腔外科、一般歯科

瀬戸山智香（歯科衛生士）

瀬戸山奈緒（歯科衛生士）

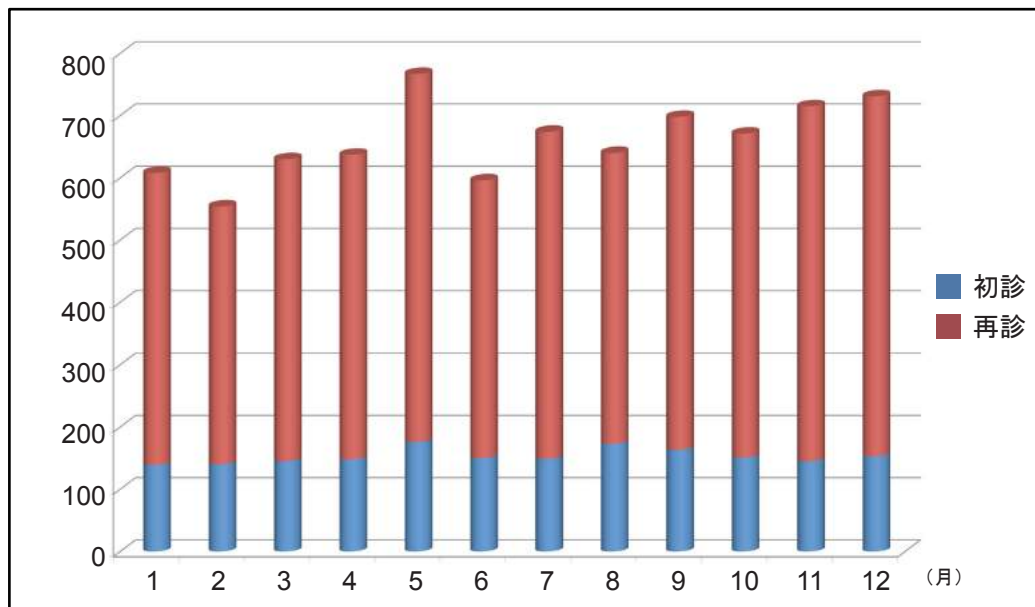
前田まどか（歯科技工士）

【平成 23 年度 統計】

- ・ 外来患者数 7,821 人（新患 1,832 人）
- ・ 入院患者 190 名

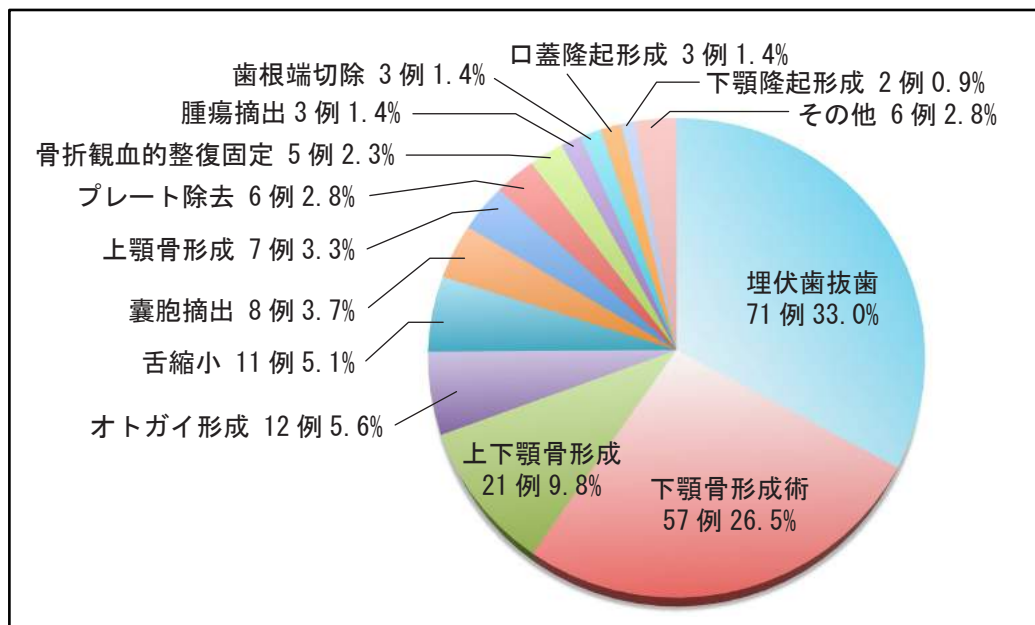
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
初診	139	140	145	148	176	150	149	173	163	151	145	153	1,832
再診	469	414	485	489	591	446	525	467	535	520	570	578	6,089
人数	608	554	630	637	767	596	674	640	698	671	715	731	7,921

【平成 23 年度月別外来患者数】



【平成 23 年度手術数 (215 症例)】

手術総数 175 例 (上記 215 例は複数手術を項目毎に集計した)



【2011 年度業績】

【学会発表】

骨格性顔面非対称症例の顎矯正術において吸収性縫合糸を用いて骨固定を行ったShort Lingual

Osteotomyの検討

第21回日本顎変形症学会総会 東京

2011年6月16・17日

吉田雅司¹、朝比奈泉²、大場誠悟²

1 今給黎総合病院 歯科口腔外科・スポーツ歯科外来

2 長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 顎・口腔再生外科

骨片固定を行わないSSRO-Floating Bone Concept-の術後安定性の評価

第21回日本顎変形症学会総会 東京

2011年6月16・17日

大場誠悟¹、吉田雅司²、北野哲也¹、川崎貴子¹、白石剛士¹、朝比奈泉¹

1 長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 顎・口腔再生外科

2 今給黎総合病院 歯科口腔外科・スポーツ歯科外来

睡眠時無呼吸症候群AHI20以上の患者に対する外科的矯正治療の評価

第36回日本睡眠学会 京都 10月14・15日

吉田雅司¹、黒江和斗²、高岡俊夫³

1) 今給黎総合病院 歯科口腔外科 (鹿児島市)

2) 矯正歯科くろえクリニック (鹿児島市)

3) かごしま高岡病院 (鹿児島市)

口腔外科医は矯正科医にどのような手術を提供すべきか？睡眠時無呼吸症候群の場合

第3回霧島睡眠カンファレンス

かごしま高岡病院 2011年 9月17日

黒江和斗¹、吉田雅司²

1 矯正歯科くろえクリニック

2 今給黎病院 歯科口腔外科

Clinical utility of HA coated implant

10th PPIS, Seoul 2nd and 3rd July, 2011

Masashi YOSHIDA, PhD, DDS・Akihiro YUDA, DDS

Department of Oral Surgery, Imakiire

General Hospital, Kagoshima, Japan

Yuda Dental Clinic, Kagoshima, Japan

上顎前歯部外傷後にHAインプラント治療を行った1例

第15回日本顎顔面インプラント学会総会・学術

大会 千葉 2011年12月3・4日

吉田 雅司¹、六反田 賢¹、湯田 晃大²

1 今給黎総合病院 歯科口腔外科・スポーツ歯科外来

2 湯田歯科医院

睡眠時無呼吸症候群患者に対するSurgery Firstでの治療：口腔外科医は矯正科医にどのような手術を提供すべきか？

第18回九州睡眠呼吸障害研究会 エルガーラホール 福岡市 2011年10月1日

吉田雅司 今給黎病院 歯科口腔外科

黒江和斗 矯正歯科くろえクリニック

高岡俊夫 かごしま高岡病院

鹿児島県歯科医師会員に対するスポーツ用マウスガードに関するアンケート調査について

第22回日本スポーツ歯科医学会学術大会

千葉 2011年6月25・26日

鹿児島県歯科医師会 ○坪水良平、吉田雅司

下顎骨形成術で治療した後期高齢で重症睡眠時無呼吸症候群患者の一例

第36回日本口腔外科学会学術総会 大阪

2011年10月21-23日

1) 今給黎総合病院 歯科口腔外科 (鹿児島市)

2) 矯正歯科くろえクリニック (鹿児島市)

3) 長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 口腔再建外科学分野 (長崎市)

吉田雅司¹、黒江和斗²、南里篤太郎³

第VII因子欠乏症の患者に対し、凝固因子補充療法を行い下顎骨形成術、オトガイ形成術を施行した1例

第36回日本口腔外科学会学術総会 大阪

2011年10月21-23日

○六反田賢¹・梅田正博²・吉田雅司¹

今給黎総合病院 歯科口腔外科¹

長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科

歯学系 口腔腫瘍治療学分野²

顎矯正手術における自己血輸血に関するアンケート調査

第25回日本自己血輸血学会学術総会 東京

2012年3月2日

今給黎総合病院 歯科口腔外科

○吉田 雅司、河野 俊広

【講演、その他】

ミャンマー医療援助隊

国分ロータリークラブ 鹿児島 2011年11月10日

今給黎総合病院 歯科口腔外科 スポーツ歯科外来

吉田雅司

私の国際奉仕 ～ミャンマー医療援助隊～

鹿児島南ロータリークラブ 鹿児島

2011年 5月 25日

今給黎総合病院 歯科口腔外科 スポーツ歯科外来

吉田雅司

スポーツ歯科の現状 ～スポーツ外傷に対する口腔外科的アプローチ～

福岡歯科大学 福岡 2011年 12月 5日

今給黎総合病院・昭和会クリニック

歯科口腔外科・スポーツ歯科外来

吉田雅司

【院外活動 (ボランティアなど)】

平成23年度第1回屋久島町口永良部島・歯科巡回診療

期 日 平成23年5月9日(月)～5月12日(木)

実施地区 口永良部地区・口永良部島診療所